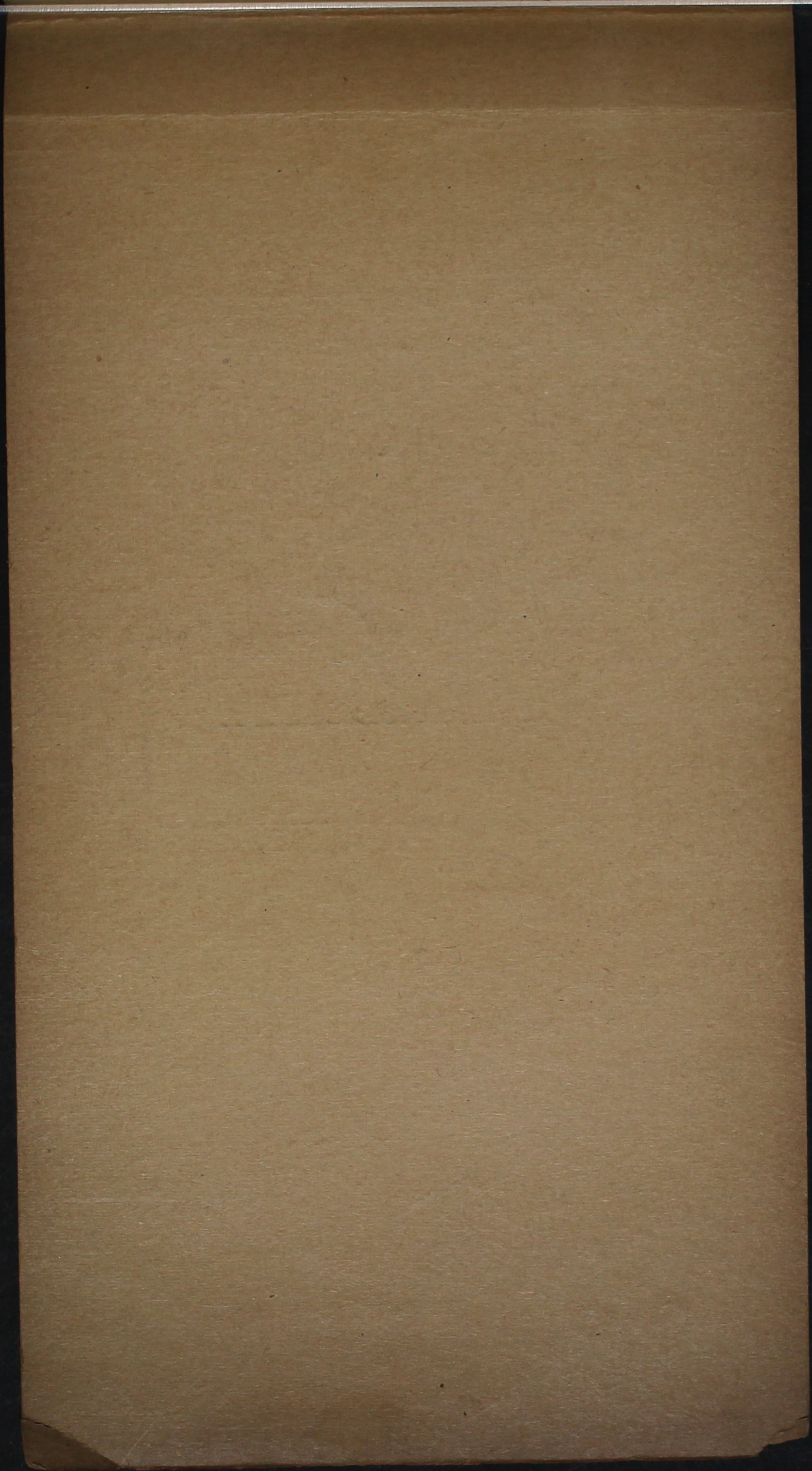
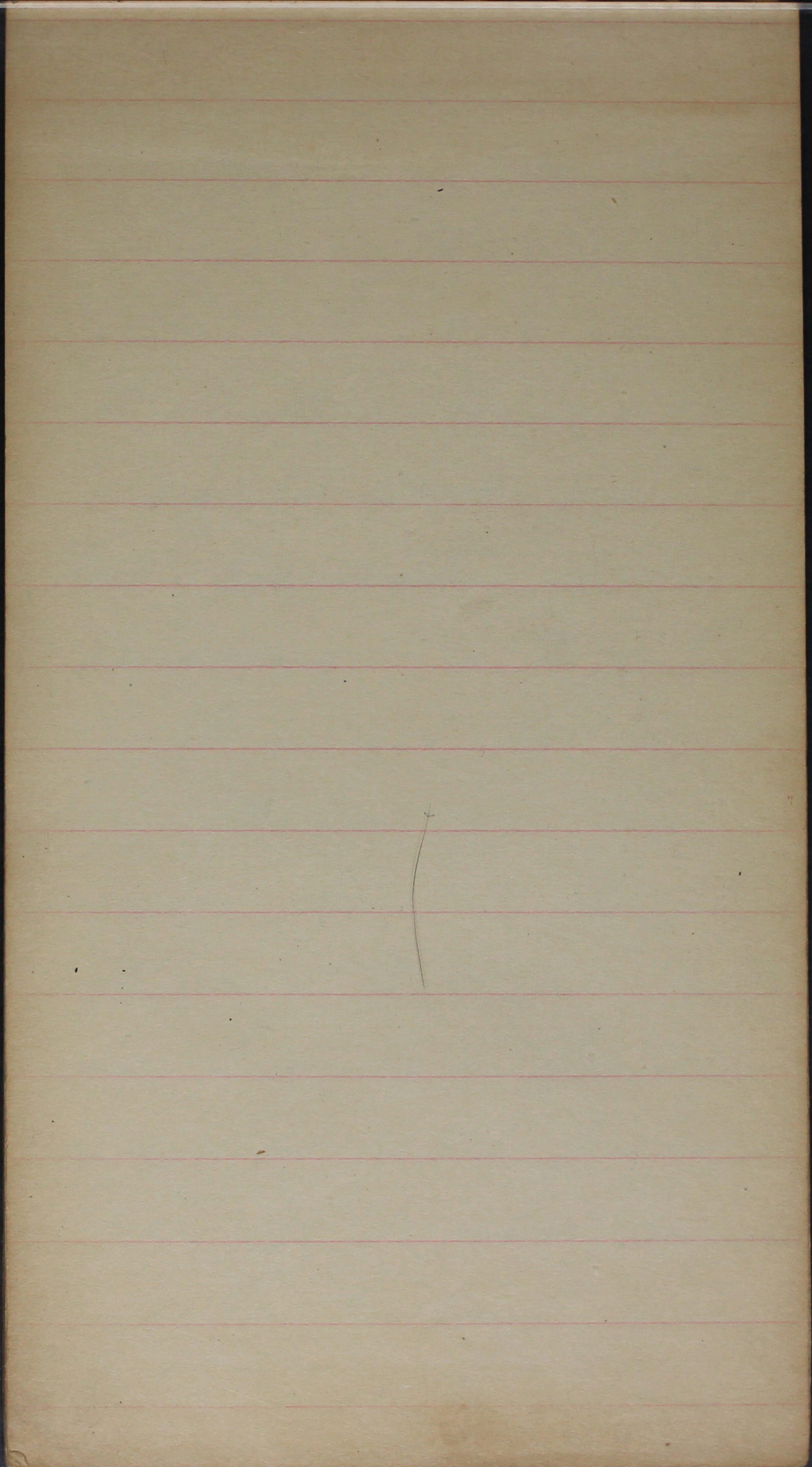
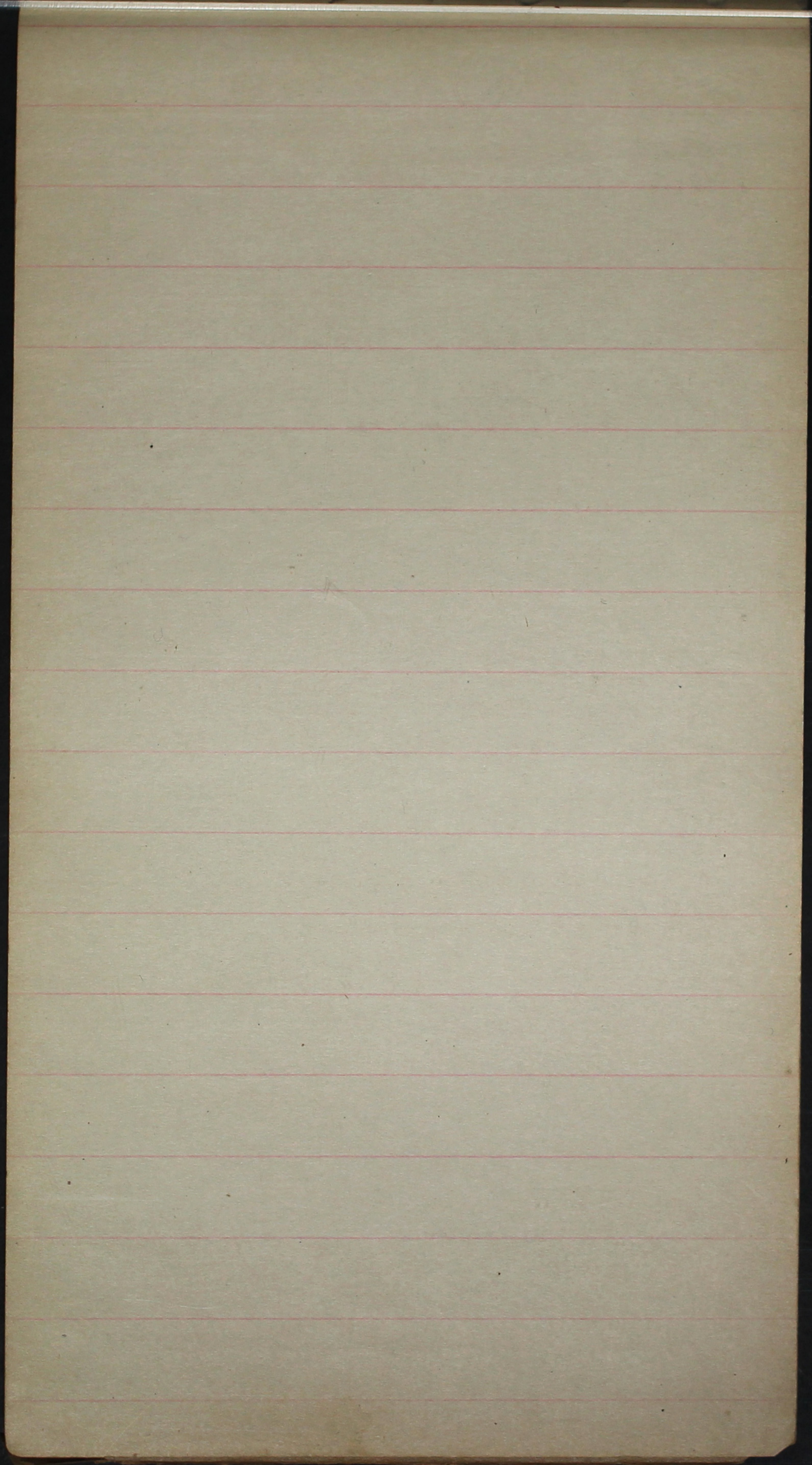


No. 3758







My dear Mr. Adams;

Here is a letter for
you from a person who
writes once in five years.
Yet, I think of you often.
I worried about you while
that hot-weather was
parading N. Y. City.

I missed that nice
long letter from you this
summer. Then, I thought
afterward that you folks
are having a family
reunion and a glorious
time. Is it not so? Virginia,
and her husband and
baby must be home

by the time Jim
also must be back
from Spain. They must
have had ^{an} awful lot
to tell to mother and
father, about Paris,
Spain and the
Philippines. You ought to
be very proud of your
son. I think ^{he} picked
up ^a nice profession
for his life. I want
to congratulate him.
Some day soon, I am going
to send him a portfolio,
Spanish furniture, as
my present. I shall

be very happy if Jim
could make use of it.

How is the young chemist?
Hasn't he discover^{ed} yet
something that could
substitute for gasoline?
Children of today are
blessed with wonderful
toys. I never dreamed of
such, chemistry sets,
electric sets, and tools for
work shop, when I was
a kid. All I remember
that I had a terrible
scolding from daddy,
because I used his
saw and spoiled it.

George, ^{is} in B. B. Camp
for three weeks now, and
expect him home by
tomorrow. He was
awfully anxious to
become an Eagle Scout,
and I doubt it because
he is too young. To
keep George out of mis-
chief, I asked Mr.
Trustman if you
could keep him in
his office. He, finally,
put George in Mr.
Hustan^s office, (who designed H.S.) as an
office boy. So he
has to go back to

office until school opens.

About - my self.

There is no change to
speak of. Still I am
in bed, (on the sleeping
porch) and one or two
hours, twice a day, come
in side to read and
(most are Japanese)
write on cure chair.

July and August are
bad months for me so
I keep myself quiet.

My wife sends her
very best wishes to
Mrs Adams, you and
your children.

Sincerely yours
Aug 22 - 1930

常宿下 定標の拍本三八
手由 敏一様

格下

今月二十一日、附。華翰 正の御得件

速に仲若中へ、此の意を集しおね失、
速に仲若中へ、此の意を集しおね失、

病針の直め、子の意を集しおね失、
病針の直め、子の意を集しおね失、

ヨリ、平に御看念、
ヨリ、平に御看念、

其甚重の病、
其甚重の病、

中、
中、

而、
而、

實は、
實は、

傳、
傳、

放、
放、

飛、
飛、

傍、
傍、

三十二年、
三十二年、

昭、
昭、

る斗の直の條等に市法を、故に、

折角の市法をすまじと拘らば、世山の

石とすらんに是よりけとの市法先と素

ざりは遺感とすら市に於、

市法靜に考ふる時に、石骨の元

際刻の存り、現職と市靜キは

ることは市が此賢業に考らば、

市志とまてらるるに、最と市有市

法は、現職に、松強と二十五年、

最善の法を撰ばれ、市勤務

に於けるもの、市法に於て、

の捷徑と存せられ、市に於て、

の或、市は、市に於て、市に於て、

もの、市は、市に於て、市に於て、

市は、市に於て、市に於て、

市は、市に於て、市に於て、

市は、市に於て、市に於て、

若子せうしのせうしをあつめしのとせんか、そのと

修め、と存しての報をすべし、失

張、舊の觀依を此とし、その綱をす、

先世のしり、一庫後す、一庫九

薨の二ま轉は）実自言に通すことを

許さ、あいに音通ひはない、その瑞る象

に指れ、神直和がと來るすじ

には、高十年方の隱忍自存と

直直愿とを要する事は、それは、

如実にを自験する事は、その人

それ故に、瑞職に二十年一回守

すらぬの和成即ち早急なりと

中上る所に是、これは時に一

考考とし、茲に陋見と踏躓

を其在る所に

何れもた、亦其分の考を折

亦昔信下と其らは、是れ也

中昔信下と其らは、是れ也

さしは

和元相備をす貴基益所清き

大慶寺事は存あり、所此女之業は

監督中の海上の事、先般 詔

完成に相事^{太心喜山同時}は由、供職^所に致服い

下、護^ん之、税^を自^身上^りあり、

固顧すは、九年程に、者^ら自^身と^す其

杉^之の^上と^来口^其葉^中視^察の^事なり

此^處茅^茹上^之法^来鈕^其也^一と^も

有^り也、

其^時、唐^之貴^基の^杉所^に中^事なり

と^思ふ^ら、温^平古^ら所^実と^持し^は、

唐^年古^ら、懸^心藉^有と^うけ^たら^こと

す^ら、と^思ふ^は、其^昔唐^語に^干釣^の

産^すと^忘ら^る、^能は^す也、殊^に、

貴^基正^布一^宿に^中訪^ねる^に古^ら

と^き、^持て^は、^科且^蒸果[、]世^人能^能

の^袂釵^日に^程け^り、^珍瑛^に施^笑

若しなりし川河、
...

懐く此の有りし如くは、
...

しおきか

良き悲みぬ。
...

健康を害せしより、
...

既に、
...

杖に、
...

の徑り、
...

杖をたすりに、
...

秋のえんを、
...

杖を、
...

は調湯し、
...

し、
...

し、
...

供は十三、
...

...

...

不景氣は益、深に進み、醜に刀、

古めに、佐藤の素の 荆妻のや、良るもの 職と今は、古え

く、とす 造針、一、二、 箸、二、三、 本、

家、官 常、政 政、事 事、既 既、に 火、と 踊

古如、せ ぎ、窮 飢、に 所、下 下、声 声、

大に、疾 呼、し 仁、する 人、情 情、多 多、人 人、

暑に、て 兼、れ 々、急 急、を 救、の 依、は 依、

らねん、こと こと、天 天、に 祈、る の、み みに、出 出、ま せ、

甚、に 鉄、匠 匠、古 古、の 死、の 出、れ 一、者 者、

末、七 負、の 百、非 非、の 瘡、意 意、淡 淡、人 人、念 念、

と、の 中、用 用、意 意、の 出、れ 一、と 出、来 来、本 本、

百、勢 勢、の 哉、下 訊、中 中、上 上、好 好、

中、固 固、者 者、心 心、す 善、後 後、本 本、と 構、す 構、

る、考 考、に 能、古 古、勝 手、打 打、た 電、報 報、

と、電 電、科 科、封 封、す 中、知 知、と 下、り 新、す 新、

幸、に 中、用 用、達 達、と 井、の 井、の 井、

は、郵 郵、傳 傳、電 電、気 気、の 電、報 報、を 精、

に就る共

母にまを、健病ありし時とし、三絶
の身と云て、昔在鬼籍に交る隠は

信養庵と申す、執言する之来

き又、報恩心に酬ゆるの由し

書(く)候、一の事一の事と云

故りと云る、哀死は其の挿入、

略知也平存主

佐野利景の兄

時下秋冷の候、相塘をみる事

壺市橋の蓋、巾吐健の由事

と拝察せん、唐が身は

当若、早々老其心は市持辱

世に此の体高橋自志二平天よ
り拝承し給へ寝耳ルれと擧
ぎ申給。幸し申給上、事、際し
考らる時とたて、老皇の養後
業の賢見存りしに、確に、致服
たも、

其致服時と直は、老皇の朝に
幸しは、後輩と推奉し、道

方ルしと養舒時に随はせりし
老皇の^未徳の年、に達せざる

に比拘り給へ、常返しと復返の
道と用き、後輩の建業生ル

其例とまをんぬたぬに養給
顧同とならぬたことには、皆、

和同不景氣の存あり生法、勤に
存存のされしもの如、幾千一とあ

る本誠心、實心、の存り、故人、此、博

先年持借返す國金、すめは

其事額有り、と云ふ、漸中

右のと存、尻、七、五、七、の、は、は、は、

不、異、時、有、如、と、思、は、は、物、存、ん、と、

思、は、是、到、時、の、先、し、み、す、り、き、り、す、

事、が、し、生、を、恨、ま、り、と、い、有、之、

也、
孤立無援之復也

病、は、名、去、二、年、三、月、は、一、生、

一、退、大、右、左、変、化、ま、し、急、し、し、

せ、し、其、功、有、く、惟、何、事、に、時、し、

執、り、任、せ、し、處、は、し、計、に、處、し、

さ、り、み、し、と、一、時、め、仲、た、た、

然、る、に、思、復、に、し、新、涼、す、ら、

九月、に、至、り、傷、部、は、日、に、く、に、

乾燥、し、痰、咳、は、減、少、し、熟、

醉、は、厚、し、元、氣、加、は、り、よ、あ、り、

は、足、輕、し、屋、根、散、お、十、分、

互馬し得るやうにたれ本^口外^口ありや

は、何と絶望し、一、今も甜^口みし、

乞食病院の先^口隔^口ひ、急^口務^口に

入^口るを待^口つ^口か、馬^口鹿^口う^口し^口い^口と^口

ふ、常^口気^口か^口沛^口は^口と^口滯^口か^口し^口し^口日^口

産^口甚^口善^口後^口東^口と^口考^口に^口究^口は^口底^口し

紐^口育^口中^口に^口知^口え^口、女^口人^口と^口稱^口す^口る^口者^口も^口の^口も

駁^口有^口さ^口れ^口し、塔^口市^口道^口の^口女^口ル^口し^口、

老^口其^口甚^口の^口如^口く^口、忘^口命^口の^口女^口を^口考^口せ^口し^口に^口あ

ら^口く^口、れ^口は^口、時^口あ^口み^口と^口す^口り^口に^口足^口す^口す^口り、

然^口る^口と^口す^口、祖^口國^口の^口生^口活^口艱^口を

知^口る^口を^口は、如^口何^口に^口孤^口婦^口産^口日^口

の^口境^口に^口た^口る^口も^口し、濟^口の^口と^口求^口む^口る^口需^口

気^口も^口あ^口り、東^口は^口唯^口中^口、君^口の^口根^口、

中^口條^口中^口西^口其^口甚^口の^口生^口活^口艱^口を^口考^口へ^口る^口也^口

言^口葉^口あ^口り、掃^口除^口を^口考^口へ^口る^口也^口

に^口せ、

たとの珍らしきも、珍障山、世に
深き所に、甚く睡る有る、中々の
美しきに感懐法し、
春よく、中程より、

中程は、藤より、菊まで、今井氏と云し
傳、序ある、今さい、紫も、秋の白も、有
川氏は、天涯地角の山是に、孤獨

の静、まゝ、あゝ、るるは、如何に、
心、淋し、や、こと、な、ん、ち、ど、と、流、り、あ、ら、
に、覆、る、心、す、く、中、阿、禿、そ、ん、

長く、所、周、在、井、氏、ま、り、報、先、在、川
氏は、平、執、中、徑、と、順、調、と
す、く、之、互、に、甚、き、の、中、阿、禿、

今、周、の、所、流、に、す、く、は、唯、唯、春、心
而、解、定、と、中、決、定、の、は、來、に、解、る
今、中、阿、禿、今、し、所、家、和、の、如、し、

病、は、心、す、く、と、か、ゆ、し、と、心、解、れ、し

病は治し難し哉 甚くは憂^あせし

去るには失^あげ 遠^あく 師^あさうに 妻^ああり

葉^あの 師^あさうは 耐^あえぬと 自^あ信^あは 危^あし

故^あに 心^あの 形^あは 危^あしを 流^あせ ねる 事^あも

は 亦^あ 自^あ定^あし 静^あま 瓜^あ 母^あ 入^ある 事^あの 如^あ 賢^あ

葉と存^あじ

昔^あ古^あ一^あるも 亦^あ 自^あに か^あか^あら^あぬ^あに、~~無^あ事^あ~~

とし 願^あみ ず、 長^あ文^あと 認^あり 失^あ、 道^あは、

終^ありに 也^あ 其^あ 王^あの 侍^あ 在^あ 決^あの 早^あ かつん

ことと 壽^あ 祈^あ 矣^あ、

命^あ 国^あに 安^あ 疾^あ 行^あ する 是^あ 一^あし 恒^あ 憂^あ

亦^あ 同^あ 心^あ 声^あ 々^あ 其^あ 上^あ 一^あ 抽^あ 矣^あ

眼^あ 和^あ 事^あ 十^あ 十^あ 一^あ 哉^あ

抽^あ 矣^あ

常口馬子

乳若傍三ツ

机下

謹啓

山は雪ひす、急にお寒しなりませ。

所西人様 養之市遠者どの何

きう結構はことひす。

昨日暮春の頃、晴はし、そよよと吹ひます

牛女は、天とすやうとし、お春おと

幾、まじ書きす、古の、皆申途

に、し出します、五の、釋、時、等、

おとし、し、清、濁、の、心、に、感、謝、す、る、

こと、如、玉、珠、ぬ、る、心、を、申、す、

病、臥、既、し、七、年、有、半、天、下、の

廢、人、と、存、す、ま、の、身、分、勤、り、と、

我はヤリし事を今また
蘇生しつづ
きつは、是れをい
えの信の賜
りし可しき事。
眩るに
書はに

其の報恩の事か
一と、酬ゆること
又玉束のつら
妙心つと堪
いし
唯懐たす、涙を
つと感付
を
堪りしゆり
ます。

肺は病みこ
はす病ん
の病
ません。れ
たせん
の病
は
忘却し
せん。た
とへ、然
先
年、
十年
のあつ
し、ゆ
す健康
固
復し、
病
に
年
二十
日
あ
ち
ると
信
し
疑
ひ
の
せん。

所社の
原糖
用紙
は
西
に
採
り
い
た
ま
した。
何
の
読
者
の
趣
味
と
な
つ
や
う
な
もの
を
と
思
は
れ
た
ま
す。
の、
また、
筆
の
善
し
書
か
れ

まをん、五ヶ年、の勤かほいのは、
乃ち勤のすすの頭の修養の足らぬか、いすうか。

モウ、二年勉学せしむるは、

る世のことに就して稔軍ち書し

の頭を。五ヶに写り入。中書志

は傑し謝す。此の上は在る

和人の期待に又あめ様するし

と讓を奮闘せしむるは、

春の坂、松井康平の記事（さき）

際頭（ま）に、過かある積習、

を少生に賜うらむ。之の故舊を

懐くは、女に中親中、は感

激すは、同時に、

しすしは。

松井氏は日本人のより、日本

人と能く、状態に在ることを、

二十年信ル河のささう。 柿の

日中人古るいとよきやうにたすけうこ

観取す火をくも河る。 五九越ん、

才、気大新の重家落とるたよ

う持印とあいはははい、か、まの

羽の技術は能て甘、まをたるとは

是許にもし及べまもん。 と作承

知を預るし。

洲科生の作、香蘭の園の記り

は類る面白し押流す。 其

の格り先けはたのむ林とし思はれ

ます。

先生の方ま字は事身うひはちぢ

か上^場定てす。 禁あわれとふ、

四破ちこし河すうとかの教え

のをかやいあしん凡ちきに流を

起し、清名か好奇心を後

らぬた。まは。野情の描写

の上手な。又、草に書進たうと

いものこのまゝいせう。
舞舞の如き、院刺古の巻

に當する人達か、さうして記

事と漢人とい世界と書込つた

書にたうたうは。甚並し、其根

公の境見出たるや、孤本

後日。甚所存たうや、國人

一人を以て選り、一人を以て選ぶ

とふ、其の如く仕掛清たるも

あつたは。

素直なう、其理あり、其

状に止めん。

素直なう、其理あり、其

少作はゆき

命国に呉る、直敷市鳳亭

と、其理あり、其理あり

ARC
113
XIV + 2 III III -

Nov. 5 - 1930

Dear Brown: -

Words fail to
express how deeply my
husband and I appreciate
your warm-hearted
sympathy for us at this
critical time.

We will accept this
check but as a loan
with the privilege of
returning it, whole or
in part, as we are able.
Please accept our sincere
and heartfelt thanks.

There must be many
patient in town who
need lamp treatments,
but - can not afford
them. We have so
many lamps standing
idle, and it seems such
waste. If you have
any patient who need
of a lamp

Agnes Rockwell

中條精之の様

外五花

お寒い時候に付くすし古。皆様方

には益々元気の所事と持参

し天候地争のさうたさうしやか

所事加息中上まらう。

所事のは展し先し之展りまらう。所

事さし先し之は所思誼を急い候を

以之感謝の旨し之展りまらう

日女は昔古書に事かざる不景氣丸に

是れはゆかし困る様候、
珠本に

大執力の所算を所事申にあらわ

る皆様去連の所心如何はやいかは深し

所同情中上まらう。

諸之私事、秋に付くすし

以来、益々益々良好です。

私は終日、宅に一人臥床して居ます。
静かにして何事もせん。稀に秋師
さんかゝるのと、家迄は月に一圓。
春獲帰りのスポンジバース。これ
のために見へ位に何う申す。
土曜日の晩は車の般りの中時迄に
子供は白布、飯を炊く。ソセジ存
とを焙つてしれる。これをして私
の枕もとに頂くと、其日の敵を凌いで
居ます。うたな今昔の感に堪へず
しる候眼すること何う申す。
晝飯は自ら板にのしり、
ほど習得をつけました。もろ
お書は原腹を感します。そ
か、秋頃近隣の人の心配し、執心
食事を、いと拝辞し、折々
持て申す。又、所因は永遠

甚るる者なり。在る中、何
か持たざる者あり。在る中、何
慮あると頂上なり。

五重の塔

幸田露伴

右にけしよへ

樋口一葉

多情多恨

尾崎紅葉

武々男

武者小路実篤

小々者へ

有喜武正

牛馬と馬鈴薯

宮崎洋村

欺かざるの記

国木田獨步

乱れ髪

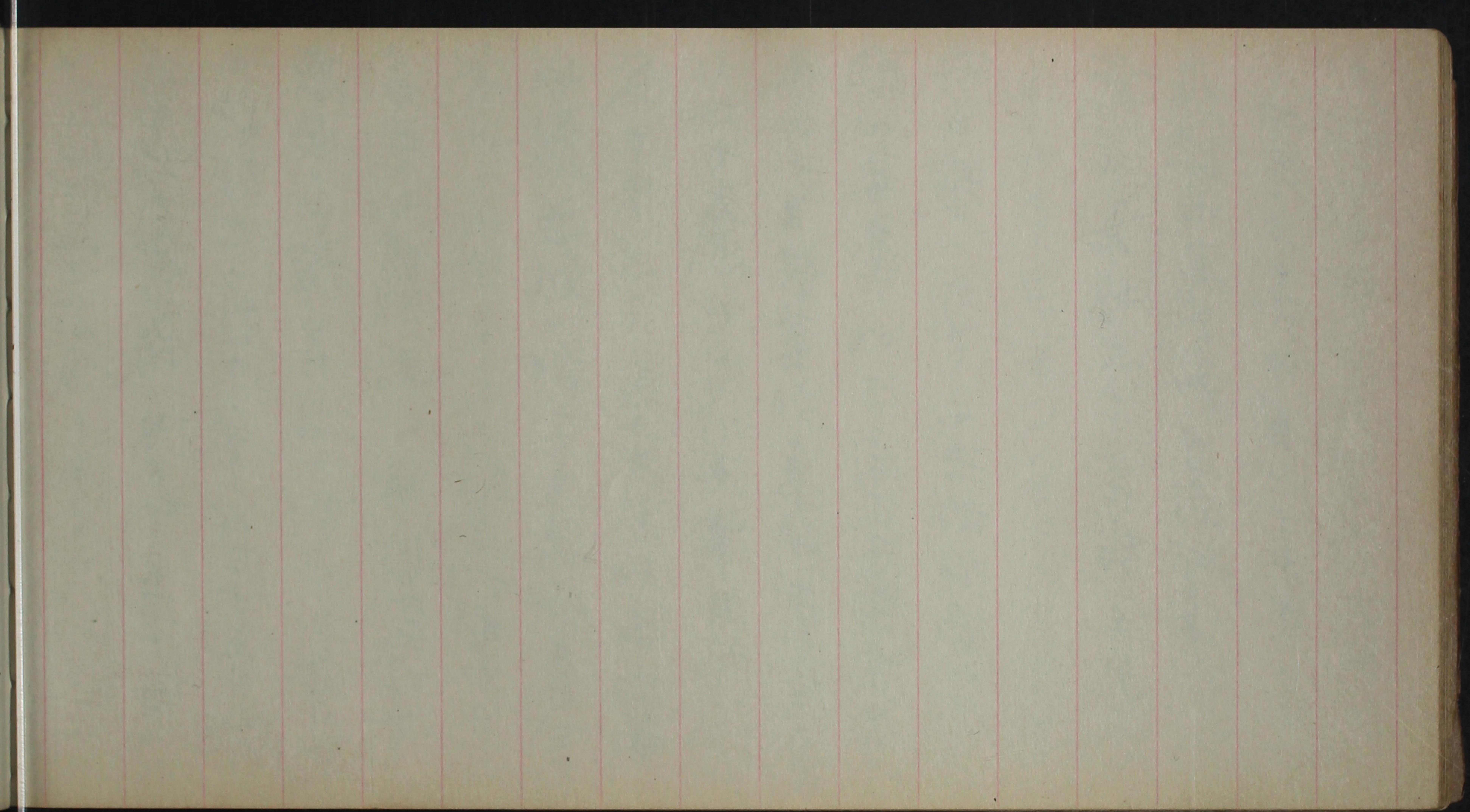
興謝鈴晶子

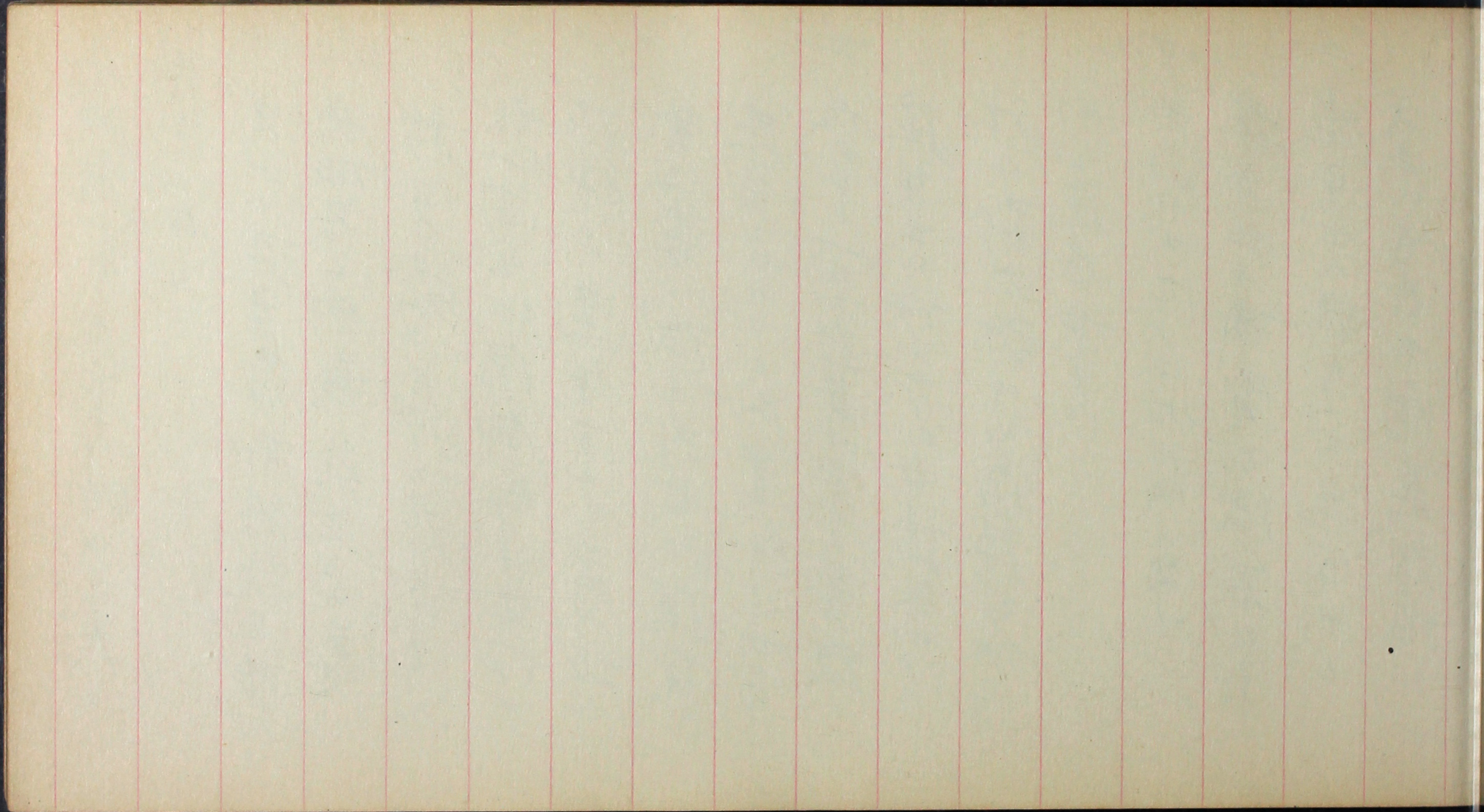
右は石島理

注 市況弄

近情市通報 そのまじり 抄本

昭和五年十月二十日





中條精一平老基に待たせし
考とせし中とせ

一、未口の建築士は所得税と中

考政存と御廳に納するの事

務あり。(私に上納し之戻りせん)

二、設計圖面仕様全部は未口の

法律上、建築士のもの故に

契約書に設計圖面仕様は

建築士のものと加筆するに要す。

三、昭和四年九月夏頃より登録

建築士に何れもは建築士の設計

計は悉く然許さぬ法律の紐

ぬき違えせり。

四、未口の士法には何れもとせし

建築士の職責を限定せし。

五、建築士の職責を限定せる

はA、Aの徳義想の

22
2
2
4
1
1
0

才二世講

御美と辞りて二十有餘年

天産する所め科月にあつて子

持つ親達の内は、如何に

此何んを子食すやきかは一喜

之患心、無患心、忘れんと

忘るる能はざらん一古撃心

どうぞうまいか。

第二世講とし、其之義なる針

に美しとは、既に先代諸賢の

講を卓説し何うすか、徒に

才の如き、後世無才の南流す

るの講地はなむい何うぞう、

Dec 26 - 1930

My dear Doctor Brown:

This was our
second joyous surprise,
which came from you.

You made us merry
on the Christmas Day
and gave us a brighter
outlook for the coming
year.

Your gift, your
interest and your godly
kindness surely helps us
to go through the hard
time. And, not only
that but also I shall
get well too.

Please accept heartiest
thanks from us all
God bless you.

Respectfully yours
T. J. R.

由のものとに返居候とおしす。たか

糖柿諸君、深き心配す。な、心を

老々お拂ふゆゑ心配す。な、心を

おめし、静まら。ちとつこくおれ。

アイクテウチエラ、リリーかめりは。

トラウブリヂ、君お長う時。

一九二五年以来、リーフ、オフ、

アッセルトと世名を飛ぶ。

これには、^只赤毛を考まじい。ゆえけるかじ

エル、依つて、^{すんやうん}のこの会か、君、君人。

免障、^{すんやうん}時、す。い。は、あ。ま。ん。

あ、見。の。世。の。我。と。辞。し。て。毒。の。根。ル。ナ

社、ま。れ。た。こと。今。某。一。この。女。人。さ。る

研、水。は。カ。シ、一。時。は。一。録。耳。に。此。と。

君、身。を。す。し。た。か、^{すんやうん}。費。を。し。た。か。と。

政府、は。得。難。さ。ら。む。す。し、

飛、捧。す。は。は。因。は。れ。り。は。此。様

権者のために、
法を執るの賢業がと悪かれ
ます。

序子権者(のち)或長せられた
のせよ、
経書と責任の権大にたる
のすな、
たに所同情中とす。

大人にあらず、
悪戯
を以て困るおす。

は、
教の目と
致されぬ時、
善

善に
至るに
至るに
至るに

何所の
善業に
至るに
至るに

かまへ
まへ
まへ

1884 - founded by E. L. J.
 for to help 25% help. of
 patients - 185 Beds.
 Cost week. \$ 24.95 average
 charge 15.00
 In family 2250
 499 - take in 499
 discharged 329.
 employed 100 - earned 25,000
 donation & gift \$ 20,733

To each 6 months
 how to care for
 self supporting
 out-standing feature.

1884 - founded by E. L. J.

for to help 25% help. of
 patients - 185 Beds.

Cost week. \$ 24.95 average

charge 15.00

In family 2250

499 - take in 499

discharged 329.

employed 100 - earned 25,000

donation & gift \$ 20,733

127 patents are received
free of charge.

Year 1929.

Improvement cost
\$43,617.99 donated by
former patients

not classified	5-	1.68-07
non t.b.	14	4.63
suspected t.b.	13	13.431
apparently cured	71	23.51
formerly arrested	112	37.09
disease improved	43	14.24
unimproved	37	12.21
dead	7	2.32
		<hr/>
		302

convalescents	27
patients	<hr/> 329

Medical, dental,
 School for Nurses 24
 X Ray - 8376 exam. people
 26000 films used.
 11^{ex} patient-are employed.

Research & Clinical
Laboratory

Sarcoma Laboratory

Medical Library

Workshop 368 taught

14 kinds of craft

36 patients were taught

while in bed ^{at the} infirmary

School for T.B. 25

一、本行... (Faint handwritten text)

二、... (Faint handwritten text)

① 外氣療法 } 此係... (Faint handwritten text)

② 內氣療法 } 此係... (Faint handwritten text)

... (Faint handwritten text)

一、... (Faint handwritten text)

... (Faint handwritten text)

康を陳しに表わし

自己の生存と賭けし在快の博奕と

弄ふらむのやうなり。一九。天下如何

たすら二瘵はと喪し自分の生命と

輕んずらむの正救ふ事は不可能

なり。

如何にして結核の瘵と對峙する

たうを得んや。

人皆結核に感傷し居るに拘ら

す或者は奈病！地獄の健康と

保て居る事あら歸紳十数人

結核菌以外に世に病二病あり

原因めなしとありたり。

彼が衷心に熱烈なる肺病撲滅

の思想と、保老の甘んじ博愛同志

の精神如何を知らずば、何と

著しん、徒年を暮らす、症癩と

願す

財布の軽い書札に對して裁は
捨つるの仁意と從うおかければ
たふさない。

世人の務めを求め安んずるを仰し書

は産も憐る本はあはいとらうをい
内者みよ、疾しかくずんば、何ぞ
耳あへん、何ぞ期すんとは。

自作、今ハシ完まらざるは書板

中修兩年の筆具の事

サウナウの山光の色を^{だた}精^まく

。新編のり大筆の筆能を^く説^く

の書、てち都会に樂用されし^る書^す

き、是の者達と、この地に^す地^すせし

所、復の^る稿^をと^りて

老人は、まゝに^る書^すたれ

それと^る無^る理^をがらん^すに^る

。其も辟易し失望はしきもの。

。執心はしきく熾烈とかうす。

。辞去する際、司事室を去る。

。北緯 四十四度五十分 旭川 四十二度五十分

。此境の病状を述べし。

。とつと平旦に書きたるもの。

。如何に懇篤丁寧に書かれた。

。干渉する所ある患者の素人に對して

。對しては得ない。

。混惑に足すに危險がある。

。結核、肺、眼、耳、鼻、の病、

。此般に慎むべきこと。

。喉痛、血痰、

。一在快者と云ふ肩板ノル鳥居の

。可敷も満ちるべきこと。

。肺結核の診察に於ては、

。四十、五十、六十、七十、

。致慕すんが、母夫の病者。

。戒に自あ作すんが、徒校の王

ひすり、

。ゆすや、講まらる人との改^亮しし、

。百^守ま^りしし、又、慰^心想^もし、誓^ち願^願

。すん^きし^のか^する^確信^信、²4⁴、¹3¹、¹1¹

。至^慈心^至管^管の^臨床^床系^系二^二、

。應^在に^是す^るも^亦一^一策^策に^任す^る、⁸1⁰⁰

。慈^心善^のを^せま^す、¹か^打算^算的^的、

。言^言業^業の^に取^取扱^扱は^はら^らに^対比^比し。

。書^書入^入具^具、^紙有^有大^大々^々と^以て^證証^証した。

。失^失上^上于^于た^た不^不滅^滅の^真蹟^蹟、²7¹、¹、¹、¹、

。とし^し不^不朽^朽の^文獻^獻たる^者と^永遠^遠に

。然^然す^との^しを^あら^とと^言い^し、³4⁴、

。の^名は^合に^啼哭^哭を^せら^るる^にし^為す^かに、

。自^叙傳^傳の^おは^は、^かの^存、^存放^放自^自を

。に^書き^流され^し、^我、^現在^在の^記叙^叙と

その去の遺懐 ニエ 企畫と余度

のちまき と、錯綜し居ます。

23 丑土、私に人と描きしため今さら

は魂と描きませしと云ふたさうだ。

世に得るべき唯一の傳記は自叙傳である。

世の生涯と細叙したものは傳記では

なく、それは新奇な生活の病癪を

書き下したる郵政の如きすし。

一五の負の舟に縋れずしと受

流るる譚のみなぬん十巻の書と現

ある事はあまらぬ。 かしのことキリは

今の描いたるを、魂と描きし

るはたけいりすまらば

井家重雄氏の権脚と此後と煙

したる知れませんでした。井家重

私の僚女新海虎の友人の如し

と

読核行股

茂野光之助

新澤重徳

二月二十日

東京市牛込区若菜所三丁目
方面十五丁十一番の茶屋

宝前附はるの感謝の表現の旨の
又同族と救済にとする熱心

の元氣回復に努めたりまじし
トルドーが如何に周囲の宗教を
つとめたかを述べた。

懸地の記事百七頁

詳に記す半境の痲痺を掃蕩
自強の強氣博を感する不
ルシエを回復するの
勢地養食の目的は生活の
腹に何等の妨を身心の
三期得るべきを標記せし
下層とし生活改善の準備

所なりて一人。

。白砂青松の海岸の身をまきらすに

湖におのしたやうな。身も世も

忘れた大自然の無量先に陶酔して

得る境地に好層のしたいのよである。

富士の且昔春の空に一切の不安を托

し得る身もばその人にとりて富士の

裾野は絶好の療養を乞ふ地である。

琵琶湖の朝夕の眺めは總てこの

有富園と忘れらるるは大神

石山も無二の療養の地たるを以て

あせん。一。ハ。九

自然におもむき強い感愛を有する

トルドーと園やうに正しく有る情の

自然の境と有るに長白人は幸

福なり。

現在の療養地は静かに風流あり

長江中流に舟に臨みて

を自然との密着の文海を

無視する所約の如く

一より一に言ふに

多岐の道を行く

紛擾を醒めし草木の如く

荒涼の奥に梅の花

しすきこと有りし

自己の理想の翹し

経を經に得し

桃李の如く下へ

さきさきの如く

傳傳傳の如く

浮薄の如く

生ははるかに

自定の如く

撃つ如く

誰にても書かざる人、
一、
一、

○ 誠の幸に長有は才のさる

○ 巨匠の行を修すは書の一門

○ 灰燼の如く得ることすは

名原のあはれ

睡

快

○ 果口の運命は其の天の

姓のうらみ

○ 横模蘭と板絶すは

○ 九三〇の事ある横模蘭の死

は一人に於ては三人、

年々はしめし城のひさる

の勢をいふ

○ 難生同士の苦の

○ 馬のぬすむたは

煙の味を嗜む

○ 書をよむは

に事ありし

Mr. M. E. Panger
474 So Salina St
Syracuse, N. Y.
Dear Mr. _____

I am writing you
as a personal letter so
you can understand my
condition and circumstance.

I have written to Mr.
Kempes - Executive Secretary
of Jan 6 - 1931
A. I. A. Washington, an endorsed
copy, and now I am
awaiting to hear the decision
of Board which will meet
in March.

You see I have been
up here ever since August

1923, some times felt very
good and another times
very bad. Last three
years I have been in
bed and helpless. This
is what some doctor says
"Living dead." Now I
am thankful to say that
I am able to sit up
half an hour a day, &
able to go down stairs.

I received your
letter of Oct 4 and I
appreciate that, ^{in which} you have
expressed a friendliness to me.
And I wanted to write
you but couldn't.

Since then I received
many notices and
invitations as if I
were well person.
Please excuse me for
not being able to write
you.

About my finance,
I am very much emba-
rassed. My dues for
1930 was remitted by
Board of Directors.

For this reason, I
am obliged to with-draw
my name from A. I. A.
and I wish tell Mr.
Walter H. Cassbeer when

see him.

Syracuse is my
hometown for four years,
and I am always longing
to see ^{again} you. So, as soon as
I be able I shall go
to see you.

Sincerely yours

T. S. R.

TR. ~~Handwritten scribbles~~

~~Handwritten scribbles~~

~~Handwritten scribbles~~

TR. ~~Handwritten scribbles~~

~~Handwritten scribbles~~

~~Handwritten scribbles~~

~~Handwritten scribbles~~

し得るものたるは 教訓

○ 今のうち 禁座と 以ての事いしけ

たふん

○ 奉公ニ症 毒薬をん インプアモリー

○ 遠近をいれし 定り附ししたる

○ 設 我的に 劣降をいんじ

すの 抑力ある

是らるの 毒薬の 毒と流るる

しとら 敵身 的の毒 毒の毒

○ 定むと 定ぬまると 毒さう TR

○ 定ぬあるを 毒さうと 毒さう

○ 毒さう 三毒 毒の毒さう

○ 毒さう 毒さうの 毒さう

は 毒さうの 毒さうの 毒さう

○ 毒さう 毒さうの 毒さう

待たるに 死ねん 毒さう

○ 研究所の 大事

同歌的、輕微の美文、
同歌的、輕微の美文、

。宏量にして、仁侠的なる意、
。宏量にして、仁侠的なる意、

。宏量にして、仁侠的なる意、

。宏量にして、仁侠的なる意、

。何れに、附き、世に、
。何れに、附き、世に、

。附き、世に、
。附き、世に、

。附き、世に、
。附き、世に、

。附き、世に、
。附き、世に、

。附き、世に、
。附き、世に、

。附き、世に、
。附き、世に、

。附き、世に、
。附き、世に、

。附き、世に、
。附き、世に、

。附き、世に、
。附き、世に、

。附き、世に、
。附き、世に、

。附き、世に、
。附き、世に、

。附き、世に、
。附き、世に、

。附き、世に、
。附き、世に、

用ふるる事ある

針灸の十

針 瑞とまゝ又元い防しし

神效方類の痛寢を教ふこ

あり

早期刊迄痛中、入院者も

之般(選)

桔核菌は極く隠微の體に

淋菌又その類、可しと甚るる

女しの甚痛を感せしめぬと

よふたか、知らす

一石に不流の毒者として下らぬ

た心から心も方の有り

早期迄痛を感ふは、何れも

急るとよふのは、女しの甚痛を

感ふ事いかに。甚痛を感ふ也

ぬのは抗核菌、淋菌、

極く隠微の體に、

~~Handwritten scribbles at the top of the page.~~

~~Handwritten scribbles in the second row.~~

~~Handwritten scribbles in the third row.~~

In regard to Mrs. Hackett

Dear Mabel:-

It was with

deep sadness that I read
your note, telling me
of the death of my dear,
dear friend. Mrs. Hackett,
filled a place in my
heart that time or distance
could never change. What
she did for my boy
year ago, will never be
forgotten to my dying
day, — time only intensifies
my gratitude and oh,

I had so hoped that some day, I might return to N. Y., and talk with your mother again, and now that is denied.

I have your Mother's last letter to me, dated Nov. 17 - in which she wrote of "feeling so miserably" and was that evening going to see some new doctor.

Dear Mabel, please accept my deepest and most sincere sympathy for our mutual loss - a mother and a friend.

If I live on, if you feel able to write to me and tell me more, I shall be grateful. Also, for the sake of past memories, I hope the friendship may not die out - but that we may keep in touch with one another - and

if I ever return to the
city, I may come to see you,
I am yours in expressing
deepest sympathy.

With love -

Ever sincerely,

情好巧 情好巧 情好巧 情好巧
情好巧 情好巧 情好巧 情好巧
情好巧 情好巧 情好巧 情好巧
情好巧 情好巧 情好巧 情好巧
情好巧 情好巧 情好巧 情好巧
情好巧 情好巧 情好巧 情好巧
情好巧 情好巧 情好巧 情好巧
情好巧 情好巧 情好巧 情好巧
情好巧 情好巧 情好巧 情好巧
情好巧 情好巧 情好巧 情好巧

表一 情好巧 情好巧 情好巧
初期 情好巧 情好巧 情好巧

。 冠斗、絶望を啣ちたる人
に希望と別を命とこ
う者らし得たこと、
。 煙をたぐらるる中し、
。 感懐と想心の薄入る、草木
情の春を記すは、

吾の景仰す。
1931年6月1日

一系根先生を志す

拜呈、

。 今年は何か多し、寒さか、

。 心、感傷か流すは、

先生に、おまけか、

いかに胸を痛めし、

年賀状を頂き、

者の老を益に吐けらること
相見しをし、ほんとうに老をひま
しむ。不^レ死^ス。 (毒が久^ク了^スの意)

命短の一人、旭川に市住
ひとと見えを居ます。旭川は寒
いので市住に市困難の事じ
せう。此地の緯度は北十五
度、市住と旭川に近い。市住

の志願が市住です。市住は下
二十五度、市住は北十五度。

末の命短が市住の市住は
度、市住の市住は北十五度
世に市住が市住、市住の市住
の市住の市住は北十五度、市住
市住は北十五度、市住の市住

先生の市住は何時も、市住
に市住の市住は何時も、市住

と珍らしい、確かな存在。おとし

是非、一頁の目にかの古くお。

まじり、作られた。...

たことと妻の母、と振ります。

世のこの、甚だしくお

中、送る、とす。坊は甘い生

薑漬、たろむす、作況味

らた、おはき、あとのま

何り、とす。

私は、その時代は、確に悪

で、つらに相違、すうません。

校長から、吐き、北、と

二、三、おすうません、よし、記憶

と、飛、す、殊、に、つら、の、悪、声、は

お右、に、耳、の、底、に、ひび、く、と、振、る、感

い、か、し、と、す。

一、五、母、と、に、と、悪、戯、し、の、大

音の土に帰すれるとは、まほた
めいとよ、心ずかたぬ、人をし
知らしめよ、世の善い事とす
たろと。と声舞ふ。と曰はれ
たしこと、何まじた。まこと
く、汗靦、尻あつ
た、と悪ひまう。

薰染成性

日教場ていじやうの先生が、あつた人
百ほ一山ひやくほいつさんと朝あさ箒はらひのま北きたのまお
る。皆みなさんさん成長せいじやうしたら、いつ百
文ぶんとたうくらくらい。とB檀たん門もんの
一いつ箒はらひとあへあれれたことああらう
ままた。

米東、東北から帰るに人お
の、あらうした。たた居いる
屋や相あり、その名も、あらう人

さうです。殊に、先か、新殿の座

ちうは、教苑の人、福の産を、

た、このた、おまう、先、剛、刻

余、新、海、君、す、其、事、の、先

に、佐、野、君、す、う、怪、怪、系

に、三、浦、君、す、う、お、文、の、座、に、

お、幸、進、君、す、う、あ、る、を、文、章、家、に、は

五、十、山、丸、君、す、う、ま、う、ま、う、。、こ、の

人、ま、は、孰、れ、も、各、の、斯、男

の、美、中、~~権、威~~と、し、声、望、を

下、に、~~藉~~と、た、る、し、の、お、ま、う、ま、う、。

この、お、中、丸、君、の、能、け、り、や、

不、思、議、に、し、私、と、同、年、に、同、族、

同、級、の、女、大、に、す、う、ま、う、。、何、事、

百、と、し、も、は、同、ト、鈴、の、ひ、ひ、き、に、

に、お、ま、う、し、し、の、お、ま、う、し、し、た、。

夏に九廿四日大鉢に暗き

湯すれば同じ井のぬを飲む

あつたも西同じぬを飲む干菜松

日本に移り同じ干菜松先生を

董陶を受けたりし事あり

この私は先生を期待に

まい、つ百文の人おるに

とよ宿のしとに、古御の天下

著別しち所は幸得に

るに深口は流しは漸母

言十有鎌倉右林を来りて

依州とて、山百文の境を

を得たは、秋のあつた、

の売を曰ふ、お頭としよ

の事むせう、お頭、脳

のはぬ何れせん、漢

た、おや、お

他日笑すべしと云ふことありし。

又別に五十元元は、右に在る方も

さねず、空糸の三子然と云ふ

文章宗と存された。中一と

青年時代に公徳、美心生清

と云ふ事られた。習性、存い事

つたを云ふ事か、勁、値、放、先、亮、心

軍勢敵、おと、先、敵、天

を燭すといふ事、あま、立、平、の、事、有

流石の、坪、ゆ、先生、ビ、ン、ク、リ

た、ま、う、の、事、有、ま、た、幸、あ、る、事、に、

二、郎、士、史、と、著、述、さ、る、事、に、

ある。耳、け、は、周、香、の、上、に、
下、取、り

潤、香、と、さ、る、事、に、
心、翼、 一、句、と、あ

と、ま、あ、り、す、事、に、
威、に、 贈、れ、り、利

の、た、め、に、事、を、世、に、
等、 事、

す、ん、ぎ、は、事、に、し、し、
新、 事、

は、お、り、る、と、い、つ、た、
成、 事、
在、る、 事、
野、 事、

見よ、世の人も。

百世に傳はるるをすまふ。何れに

は、^白戒にしくせむししもの事をめかす

かきかばはす。私淑すふ事ごと

は、ちうせんか。

また人、生れながらんしこ、^白戒に

たらしとせ、事キ、せん。いふこと

難いことばあり。難し。は、この

はんとすむ志とす。す。士んたふと

といす。ま。この志と士んたふと

たふと。いふ。おふけけの教の

何れに傳はるる。たす。つむす。の

おれ故実、五十九、^白戒の、

すむ志と、^白戒に、士んたふと

の、^白戒に、先生が、ある。一

第一、^白戒に、性といふこと

すむことと、私に、伝する。

自戒

人の師とせしむる先ずと前集は

るは先世屋のせりたり。同じ

先世屋の申しし。生後。4

先世と云はるるは幸中、

山百文の生後先世と云は

るは万幸なり。10

後世の坪屋の甲るに幸

を以てするは万幸と

ゆえするは此の幸なり。

しんたしと相ひますと先世に

あしの中。万幸なり。

宿に自戒。10

宿に自戒。10

宿に自戒。10

宿に自戒。10

宿とせよ

衆人の中に此の徳をたもたふにまよふ者、

右の徳は、この徳をいふに、この徳

たるは、然れども、その徳をいふこと、

か、耐しとするは、その徳をいふこと、

志を抱しする。その志を抱し、

操は地に感ずること、これあり、

感ずること、その徳をいふ、

道に感入る、この徳の、

故に、今一、この徳とする、

徳、抱しする、其の徳、

たるは、人徳たふし、

徳、依する、此の徳、

徳、感化に、なる、

徳、操、性、を、成、す、

徳、は、た、る、か、

私、は、今日、の、お、し、

徳、心、を、操、し、

染織 → 甚しいこと
と
一
二
三
たまにさしあはすの
ひかりもあつた。

さるも、馬の尻より、少くも

時代の教化にあらざると私は

信するをさうもせんとせし所

謂ふ事一染織と云ふこと

は、何れもさうもせんとせし。

看讀師養感所

奉業堂。今。本日十七日

加奉右 及a. 併乃。病院

12 勤 陪才。九十四名。今

秋以 遠は塔 三 途川 之 丘

3 人 之 1 右。いかに 絶望

X ray. 部は近年若

1 才 勤 才 之 有 2 一 才 之

肺の 撮影は、a 腎 之 陰に

一 a 平均 二 十六人。腹の

は "二 人 才 之 材 之" ~~肺~~

一年の 検 査 之 費 才 之 一 才

万 才 之 有 才。而 之 之

秋 謀 之 就 勤 才 之 奉 快

是 者 之 十 二 人

返院カード三十九

1929-30

1-4月 返院者 10

5-8月 " 38

9-12月 返上 281

309

1928. 11月 109 181

照るんたた のみ

獨り文章一紙は、のみ金一紙成

~~り~~其趣を異にする

す。今日の天下を教養の十部

の文章は、ゆ後世の天下教養の

を得るか成かなり。隨んは

まはる所のた其趣を知らる

のヨメとすらぬ。千代子の其

式部と知れぬ。真かとす

からます。又、其のCross

タホア、ローンと其其の心定

おきりは一、大徳に能く
身、其の如く、五十山、
百世に傳はさんば、
と私は言ふ。其の
その心は、文、
了す、心は、五十山、
は、其の心、

一期、二期、三期、
減り、其の三期、
病、生、死、
心、無、
中、の、心、

ついで

舊山 標牛 標印持

流皇のゆるは 標牛の生 涯の明証

か平土下 三千四の 終正の 生かた。

の終正の 標所は 終正の 平塚者

雲塔上の 標室を 終正の 終正の

清見寺の 鐘声は 遠かに 海潮の

柔し、心地よき 御音を、標牛の 月夜

後に傳へたむし 何うう。

私の 著書の 若干を 通して 終正の、

標牛氏に 終正の 終正の 終正の。

私の 終正の 終正の 終正の 終正の。

私の 終正の 終正の 終正の 終正の。

私の 終正の 終正の 終正の 終正の。

私の 終正の 終正の 終正の 終正の。

私の 終正の 終正の 終正の 終正の。

私の 終正の 終正の 終正の 終正の。

私の 終正の 終正の 終正の 終正の。

今年に近しい昔の清見流の凡光如葉
あしくちる来る。この如清見流と
通らば標半と直基と得ら古に
この因縁のちり。こんは決い
た。標半と同じ病を流に直
たゆみ水左今Aと付つは。湯
お崇好の備と癒し病友と
ゆのまを依し得るやうな丸する。
忘偉なき批判も標半我が微笑を改
聴と受れる相好えぬやう。

七ころんこり、標半我が文を流と病を流の

矛盾の書をしかりし事よ。掌板な

識見と匂爛なところと。殊に膝水と

透徹せむ直覚の方と直覚直往する

不屈の元身とを併せたうと克せを

歴と歴し古標半の文を流と辨

するに眼を好しと、その病を流と通

観一古時、私に標半の「観劇」に笑ひ
たりし、寧ろ標半の「我と我の商會」に
布と盤、費し古無謀と恨み、憤りんに
飛ぶ如き。標半の病を治しと違観
し、何に貞執、牙癢、息生流と云
見たり。標半の「以て」を「再」の
評、禱の事と執るに、「再」竟
快らんかためんは吾が情強き、「再」過が、
速はあかきには、吾の智、明、肯ん、「再」過、
予は是の中間に、低徊して、「再」歸す
る、「再」處を知り、「再」なり也、「再」と、「再」き、「再」なり也、
病を治し、「再」標半の病は、「再」果し、
標半の古に、「再」餘り、「再」強く、「再」其智、「再」未は、「再」去
に、「再」餘りに、「再」あか、「再」つ、「再」た、「再」て、「再」あ、「再」ら、「再」う、「再」ら、「再」。又
群に、「再」飾ら、「再」れ、「再」た、「再」才、「再」華、「再」み、「再」富、「再」ん、「再」就、「再」は、「再」云、「再」は
す。標半の、「再」貞、「再」執、「再」を、「再」書、「再」き、「再」つ、「再」け、「再」た、
消、「再」息、「再」を、「再」と、「再」通、「再」観、「再」し、「再」り、「再」何、「再」す、「再」ら、「再」病

驚と吐唾と仕烈の意年と
或女難し、又疾患と看破しん聰
服の理知と見おし得存いふは私
の痛歎ん堪へたし所ひする。

文壇と汎靡したる俊爽甘不
厚な標半の態とと、然とん

痴癡の後へ追従し尤其の傳すい
標半の凡俗と、強んと強人の威心の
言つ所も因はするもの、これほ疾

慧とめりる無疏解の致す材と和の
思ふ。才識一世を靡らしん標半

の靈在強の白雲のけし、其の才猶
打生流を流自とゆるに度破しん其

か、天才たる神政と微笑とぬる
か、知たぬか、天折はきすひり

なし天才の正物とありはほい、今

標半をうけしん標半、古の

の意、
報を指し示す。法識の正と
之、
世の禍何と甚めざる可らざる。
人は標牛の短生涯を此に於て。私
は天折の眞因を憂ふ。之を以てこれ
を同病とし、この疾心の言障の
情を信ずる。之を以て。

嗚呼、標牛、
立天の靈、
高しは如きは評一篇と若し、
満腔の弔意を言ひけり。よ。

ちよん年若き世のこゝに、

斯く觀じれば、
結核予防の第一如
結核菌の絶滅等として、
禱は女末
顛倒するに、
実行不能の愚禱に過ぎる。

個體素質衰頹の要因、
先天的、
後天的、

後天の因子因のほ秋の生洗淨化と減
退を^{あり}あるの因のほ^{あり}實を^{あり}し^{あり}。

實を^{あり}加^{あり}する^{あり}事^{あり}層^{あり}不^{あり}良、不^{あり}潔^{あり}衛^{あり}生、

生洗、過^{あり}激^{あり}苦^{あり}汗^{あり}の^{あり}苦^{あり}後^{あり}は^{あり}人^{あり}體^{あり}の^{あり}生

洗淨能^{あり}を^{あり}減^{あり}退^{あり}させ^{あり}事^{あり}補^{あり}を^{あり}下

七^{あり}の^{あり}事^{あり}因^{あり}の^{あり}代^{あり}表^{あり}級^{あり}の^{あり}事^{あり}何^{あり}之^{あり}。肺^{あり}結

核^{あり}の^{あり}實^{あり}母^{あり}階^{あり}級^{あり}の^{あり}最^{あり}も^{あり}多^{あり}し^{あり}。我^{あり}生^{あり}する^{あり}の^{あり}は

故^{あり}の^{あり}事^{あり}。行^{あり}し^{あり}、實^{あり}之^{あり}の^{あり}事^{あり}の^{あり}生^{あり}洗^{あり}淨

能^{あり}を^{あり}補^{あり}救^{あり}させ^{あり}る^{あり}もの^{あり}は^{あり}は^{あり}し^{あり}。放^{あり}縱^{あり}

情^{あり}存^{あり}奢^{あり}侈^{あり}生^{あり}活^{あり}し^{あり}、全^{あり}機^{あり}を^{あり}現^{あり}

に^{あり}お^{あり}し^{あり}、^{あり}終^{あり}日^{あり}業^{あり}の^{あり}報^{あり}り^{あり}の^{あり}最^{あり}人^{あり}の

生^{あり}活^{あり}の^{あり}事^{あり}し^{あり}し^{あり}生^{あり}洗^{あり}淨^{あり}能^{あり}の^{あり}減^{あり}退^{あり}を

来^{あり}する^{あり}もの^{あり}を^{あり}、實^{あり}を^{あり}か^{あり}振^{あり}し^{あり}疲^{あり}弊^{あり}の^{あり}事^{あり}。

安^{あり}佚^{あり}の^{あり}事^{あり}を^{あり}弛^{あり}廢^{あり}し^{あり}、其^{あり}に^{あり}等^{あり}し^{あり}。

肺^{あり}結^{あり}核^{あり}の^{あり}事^{あり}を^{あり}因^{あり}の^{あり}事^{あり}。故^{あり}に^{あり}社^{あり}會

の^{あり}事^{あり}を^{あり}不^{あり}潔^{あり}と^{あり}取^{あり}り^{あり}、個^{あり}人

の^{あり}事^{あり}を^{あり}不^{あり}潔^{あり}と^{あり}取^{あり}り^{あり}、個^{あり}人

の^{あり}事^{あり}を^{あり}不^{あり}潔^{あり}と^{あり}取^{あり}り^{あり}、個^{あり}人

この場合、個體としての幾天の衰頹

を防ぎ、肺結核を遠く滅ぼすこと

後、何を言ふべきかは、はなはだ

最初の喉症

曰、莫如可之は困る。こゝに、得て

之場るといふ、と、笑ひたつて、ふつと

構ひたつと、又、軽い痰嗽と昔に血

口中一杯の濁る。起き、上つて、痰壺に

吐し。

考ふたこと、おぼろげに、中々、笑ひ、いふ、殊に

遥知漢使蕭關外、

愁心見孤城、落月懸、

去、若、悩、病、愁、の、疾、痛、

一、號、を、号、を、寒、から、一、め、つ、り、は、な。

箴規、は、忍、従、と、記、し、再、入、

赤、魚、骨、に、徹、す、る、脚、を、お、し、

摩、姓、と、我、々、の、悩、病、に、可、奈、れ、せ、ら、れ、ん。

脳底刺みつけられん。

結核治療教育

結核とは何か、

歴史的、説明、

潜伏、

遺傳性、そのもの

治療法、

注射剤、その他、

自然治療法、放任療法

自然治療

外気、禁煙、安静、

外気

昔の
今の
外
光
に
つ
つ
つ
つ

正
三
原

女靜人

身體の安靜

精神の安靜

○ 言 頼なき、苦惱窮愁の疼痛

○ 天に縁て天にまゐる

○ 運命に忍従する、居縁とはあり。

○ 幾規を忍従と改し一母人

○ 毒食を身に徹する身と改し

○ 毒食を洗ふ如き

○ 毒

○ 歴然と我々の脳神に印をせ

らねる。脳底に刻みつけられる。

○ 自 毒薬の毒は是から毒をとする

○ 病菌の毒。換気の不足。

○ 事務所の仕事に、困る、

○ 毒の毒の如き、肺の毒キよ

○ 充分に成し飛べるもの。

。暗黒の層のデンプト空氣のスペース、

ある如き、

。またよりの感、

個體、素質の衰頹を来す

。子國に先天的と後天的とあり

である。生体細胞を遠滅せし

める如し

。戦中、リンニ倍率の

肺量、

園田三朗

角田押作

山中若夫言
山

竹中傳五郎

子繁徳次

塚田教平

井上讓

表寛 34 助 表右衛門

中 洞 山 右 洋 郎

小 野 正 一 表 右 衛 門

上 右 衛 門 次 郎

宮 右 衛 門 清 三 郎

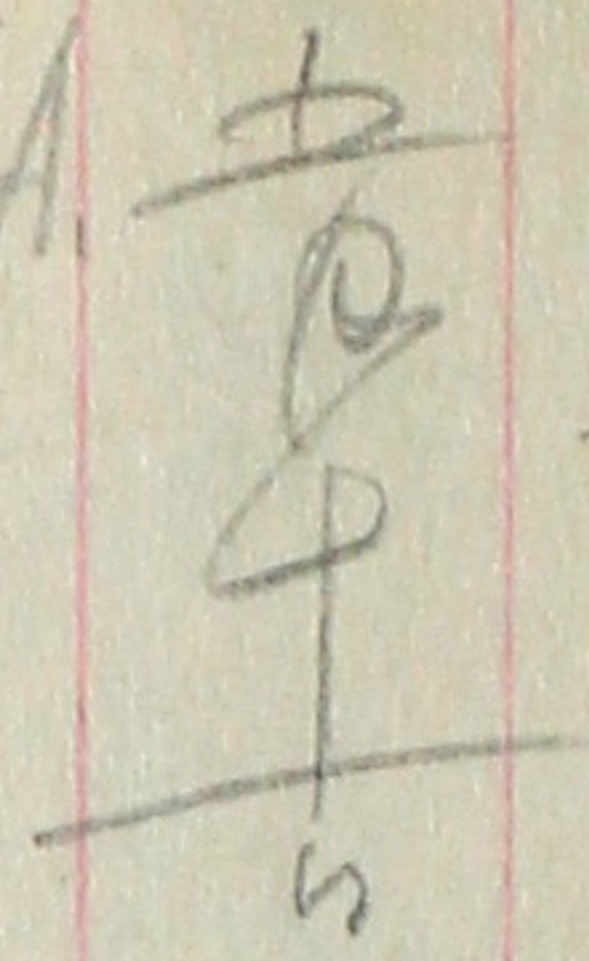
丸 山 近 左 衛 門

三 井

村 殿 丸 右 衛 門

高 田 忠 由 三 郎

○
N.Y.A.
久末、南波、園



麻の田



軒先の
楓の
表書き



明和
二年
五月
七日

鶴井之老真主
夫人

謹院、靈の事は二月十日の般定

しすた。私の上は十日の般定し

すた。

馬の事は、紐交行の務法とし

用は、鴨井命夫人は、登し

作勝健、連は、通子と拝

函、先、感心致般定せ

を、お上、強は、お若さんのオフィス

に、鴨井さんと紅花さんに、おし、連

したと。十二歳の寺、晴を、おし、

母の、守、事、し、美、存、し、た、や、れ

る、こと、十九、年、は、三、ス、メ、タ、ム、ソ、ン、

す、う、河、美、存、し、た、や、れ、る、こ、と

す、う、河、美、存、し、た、や、れ、る、こ、と

らん『めろろろ』の柳左馬

あまのついでに、鴨井さんと

おさんのついでに、と叔

さんに柳左馬は声として、

すーん。

それと耳をこみまわると、

あま、何だたい。鴨井さん

とのおさんのついでに、再か自

己、^{何んを}また、^{おの}また、^{おの}また、

息のいは、^{何んを}また、^{おの}また、^{おの}また、

うしとまた、^{何んを}また、^{おの}また、^{おの}また、

また、息のついでに、^{何んを}また、^{おの}また、^{おの}また、

の今の、生かす、大はどの用もな

さぬ私と、^{何んを}また、^{おの}また、^{おの}また、

たぬ、^{何んを}また、^{おの}また、^{おの}また、

書、^{何んを}また、^{おの}また、^{おの}また、

至心、その心、^{何んを}また、^{おの}また、^{おの}また、

至心、その心、^{何んを}また、^{おの}また、^{おの}また、

至心、その心、^{何んを}また、^{おの}また、^{おの}また、

此才津安の私には、事一に
感謝するの方と何と云はん。

世の中は莫く安んずるは
備え居、また仙とすは

は備え居也と、教行教養

云々である。

伊達に送るに、あやうく早事

又ムシと云ふ十九事

村中居より、十事、百に

挿紙片、事と云ふ、親子

三人、感佩する、事。

市帯圍に、是る、直感

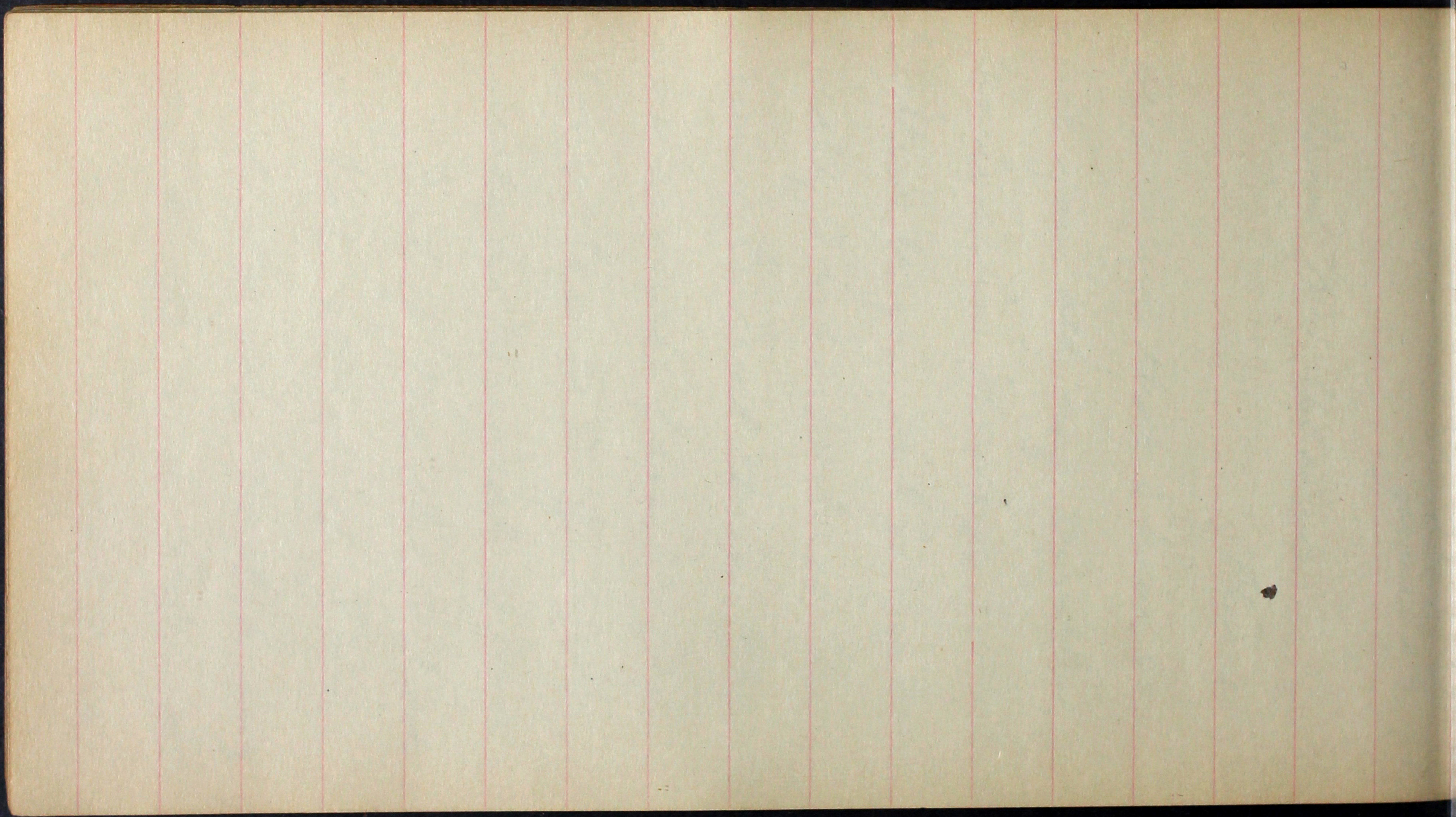
市帯圍に、是る、直感

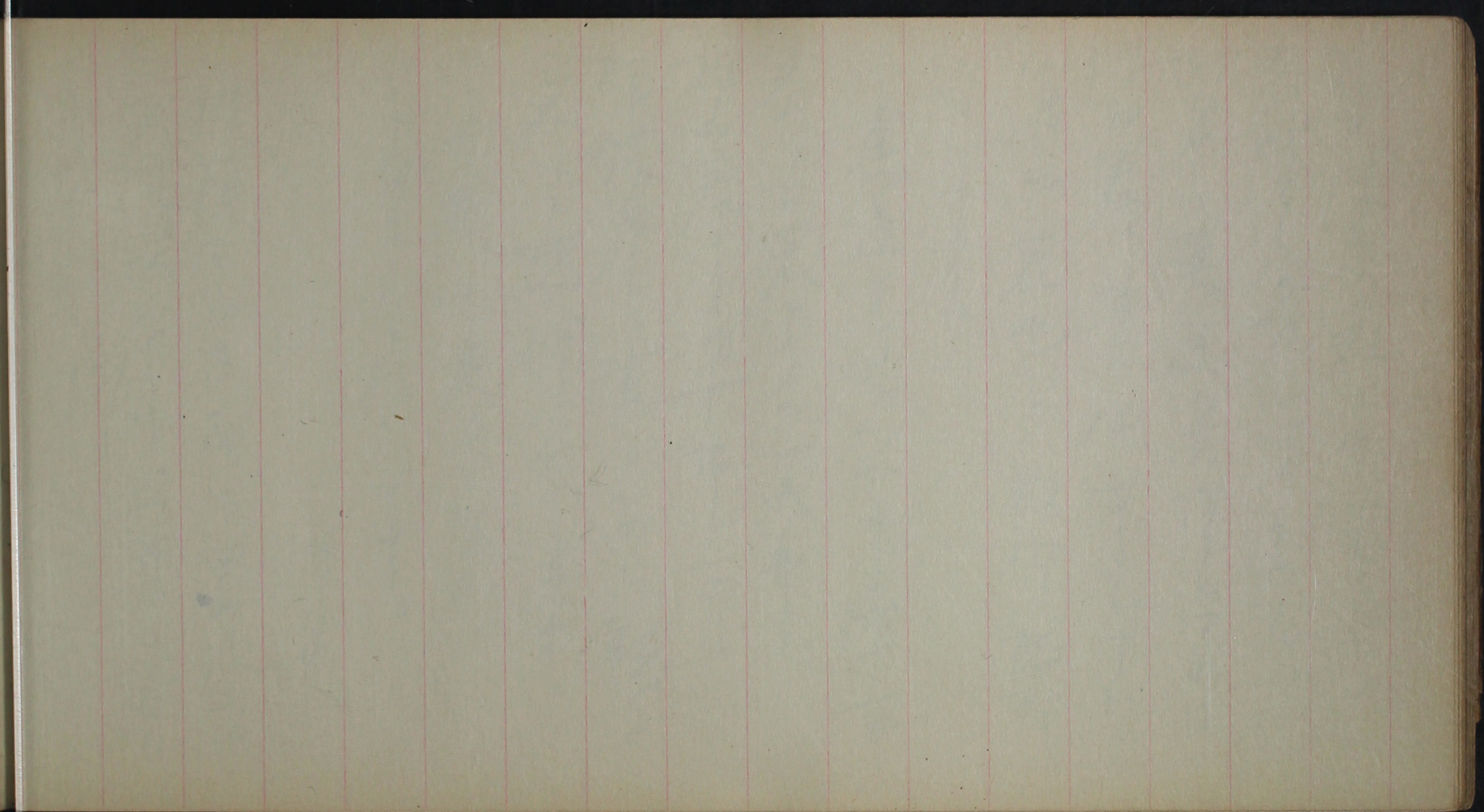
挿紙人

横原市中に、南を、甲所、小

大木信次、五井、遠近

七月二十四日 1931





June 23, 1931

Dear Mr. Adams:-

Please

forgive me that I have to
tell you all my troubles.
Since since January, I started
letters to you and John, but
really I did not have the
nerve to send them. Finally
it was made possible for
Agnes to go to N. Y., and
make a personal appeal.

End of March, I had
a bad attack of Flu
and almost coughed my
head off and I thought
that was the last of me.

As I told my wife, "Any-
thing you wish to know
regards to bringing up
George, ask Mr. Adams's
advice."

I will tell you the truth,
that no one knows
what
it means to come up here.

do you do

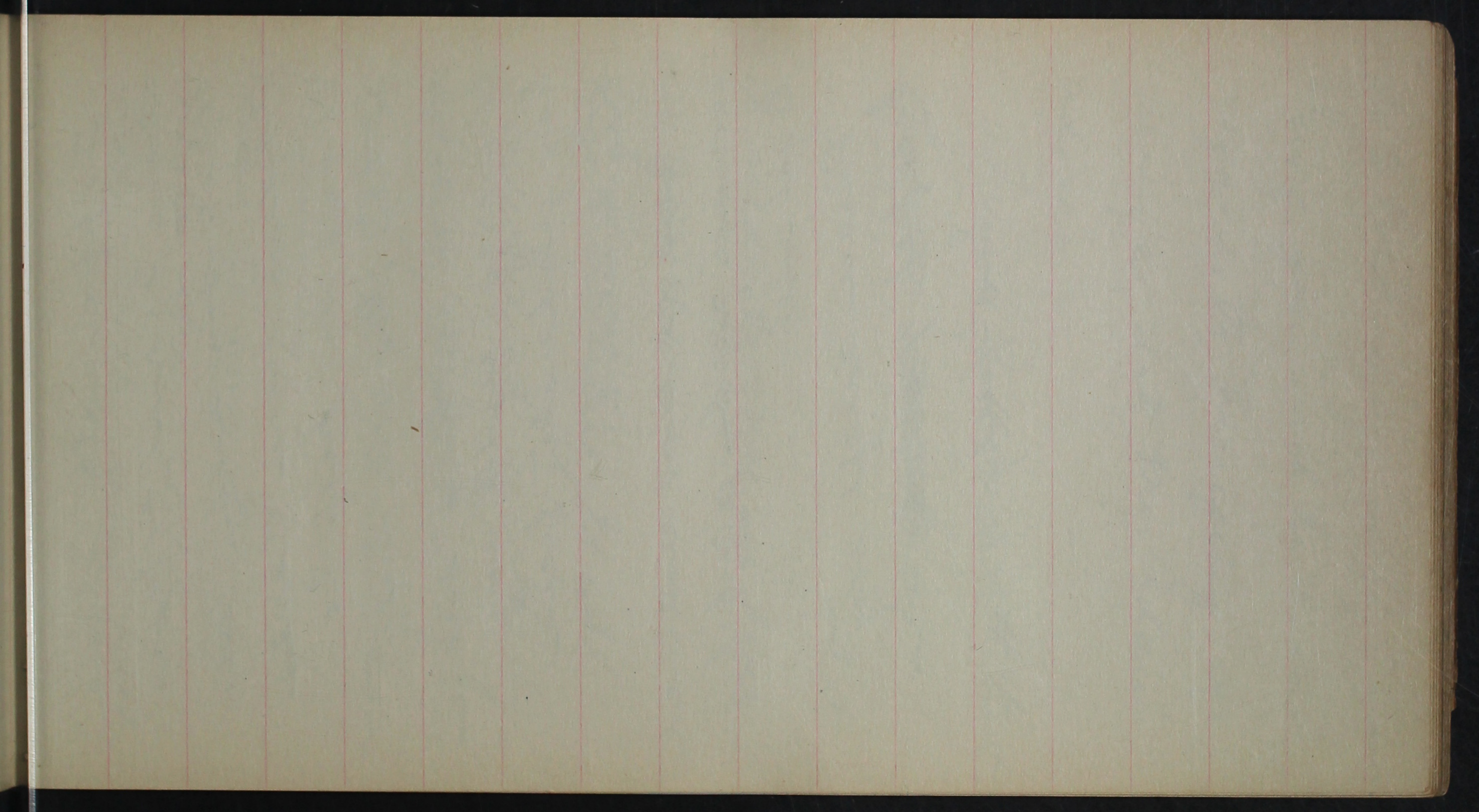
Another thing, to get
sincere and motherly
advice, I wanted Agnes
to see Mrs. Adams. Con-
sequently, my wife
went to your home,
where she could
talk with you both.

I appreciate more
than I can express,
what you and Mrs
Adams have done
to help us keep to-
gether. By your help,
there is nothing more
to worry until my
boy graduates from
High School.

I have now renewed
courage and ambition
to get well.

Please accept my
heartfelt gratitude.

Sincerely Yours,



June 23, 1931.

Mr. Rowada:—

Dear Sir:—

In this
short note, I wish to
thank you for your
kindness in helping us,
so we can live together
for two more years.

By your help, I have
renewed courage and
ambition to get well
again. Agnes joins
me in sending heartfelt
thanks,

Sincerely yours,

Mr Judson Livingston

527 Fifth Ave

N. Y. City

My dear Sir.

My dear Mr. Livingstone:

2

received a copy of your letter addressed to Mr. Shampson I am very sorry that I have to appeal to you and my friends in this way.

Without this appeal it would be the end of everything for me all. If I were alone, I am happy to die, but that would not be just to my wife and boy. So please understand my position.

I thank you very much for the one hundred dollars you donated for my

evening fund. With
that fund, I am able
to care at home for
two more years
without worry. Again
I accept my heartfelt
thanks.

Respectfully yours,

Please remember me
to Mr. Jacoby.

August 1, 1931

Dear Mr. Thompson:

24

has taken quite a while for me to make up my mind as to just what disposal to make of your check. I have finally decided to have your opposition.

I know and appreciate Mr. Thompson the reason you released the balance, but if Swaback had his health, he would have given to you, you only saved, a gift worth far more in value than the small check we did need. His only regret was that he could do so little at this time.

Therefore I ask you,

please to accept the balance
you returned and
think real hard
for something else you
may care to have.

Only by so doing, can
you make us happy.

With all good
wishes,
Sincerely yours,
Agnes Rockrise

12 敬啟者 茲將 貴號 欠 我 之 帳 目 列 下
12 敬啟者 茲將 貴號 欠 我 之 帳 目 列 下

My dear Dr. Brown:—

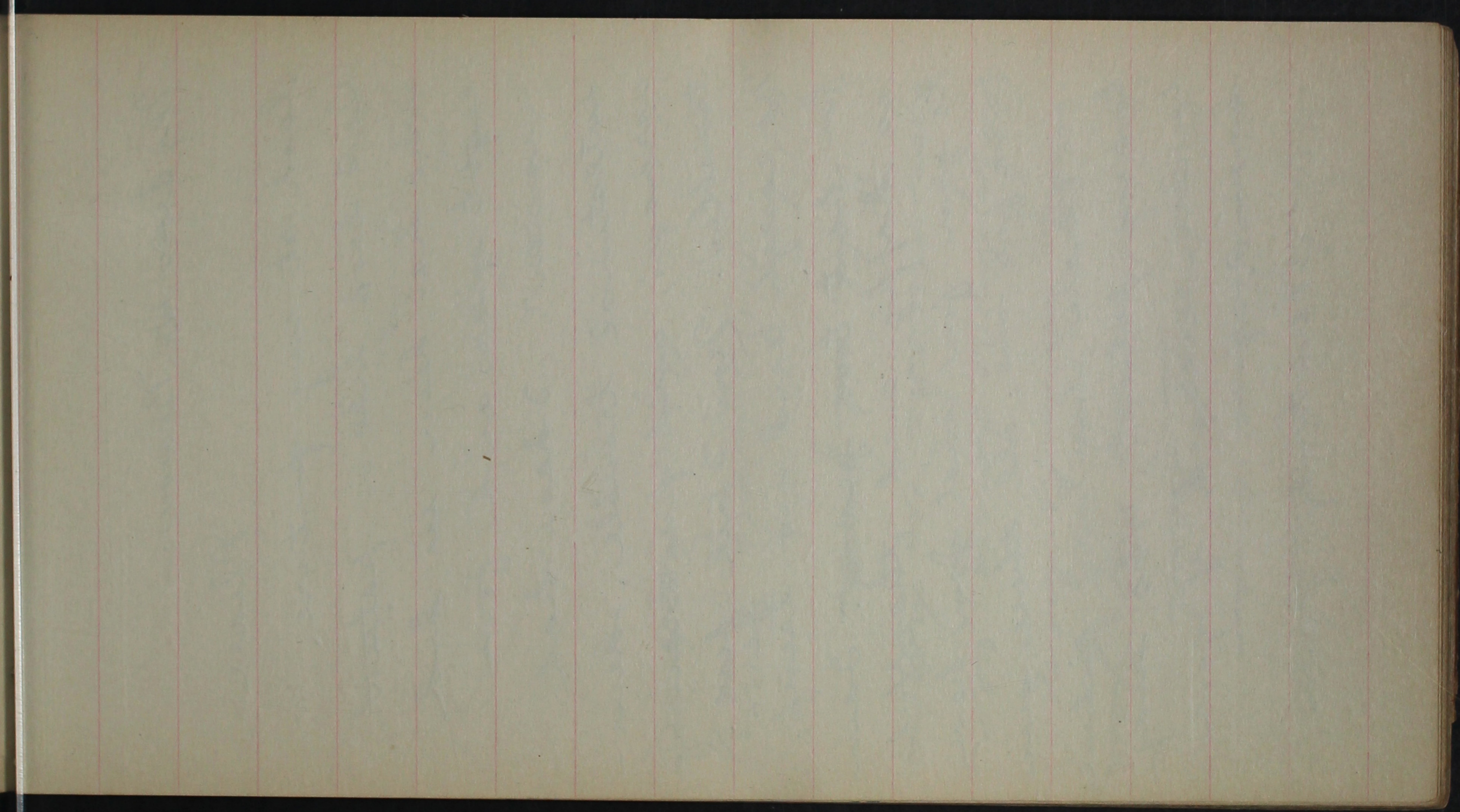
Please

look at my picture.

Do I look like a patient
who has been in bed
eight years and four
months? I have had
intestinal trouble, hem-
orrhages, and pur draining
troubles. Now I feel fine.
No cough and no temp,
for past two years. I am
so happy and thankful
to you for what you have
done for me, all these years.

Please show my picture
to any patient, who may
be discouraged, if you
have any.

Very truly yours,



November 2, 1931

My dear Mr. Baum:—

Please
forgive me for not writing
before this. It was some
time in June, that I received
a copy of your letter ad-
dressed to Mr. John A. Thompson.
I intended to write you
when you returned home
from abroad.

I was feeling fine up
to September, as you can
see by my enclosed
picture. When I started
to exercise a short distance,
stomach and intestines
began to give trouble. The
first week in October, I
was very ill. Had several
attacks, resembling spells.
They were caused by
gas & in stomach and

intestines, pressing against
the heart.

During the second week
in October, I have been
taking a different treat-
ment and I feel a little
better, every day. Perhaps
in another month, I will
be able to sit up for
a couple of hours on the
cure chair.

I want to thank you
for your kindness in
giving \$50.00 for my cure-
ing fund. By your help
and other friends, enough
has been raised, so I can
cure at home for another
two years, I'm that true,

I'm sure I'll be able to do something to earn part of my living expenses, so please do not ask any of my friends in Syracuse to help.

Last year, Mr. Raymond Jewell, called upon me, we had old time chat together. Do you remember him?

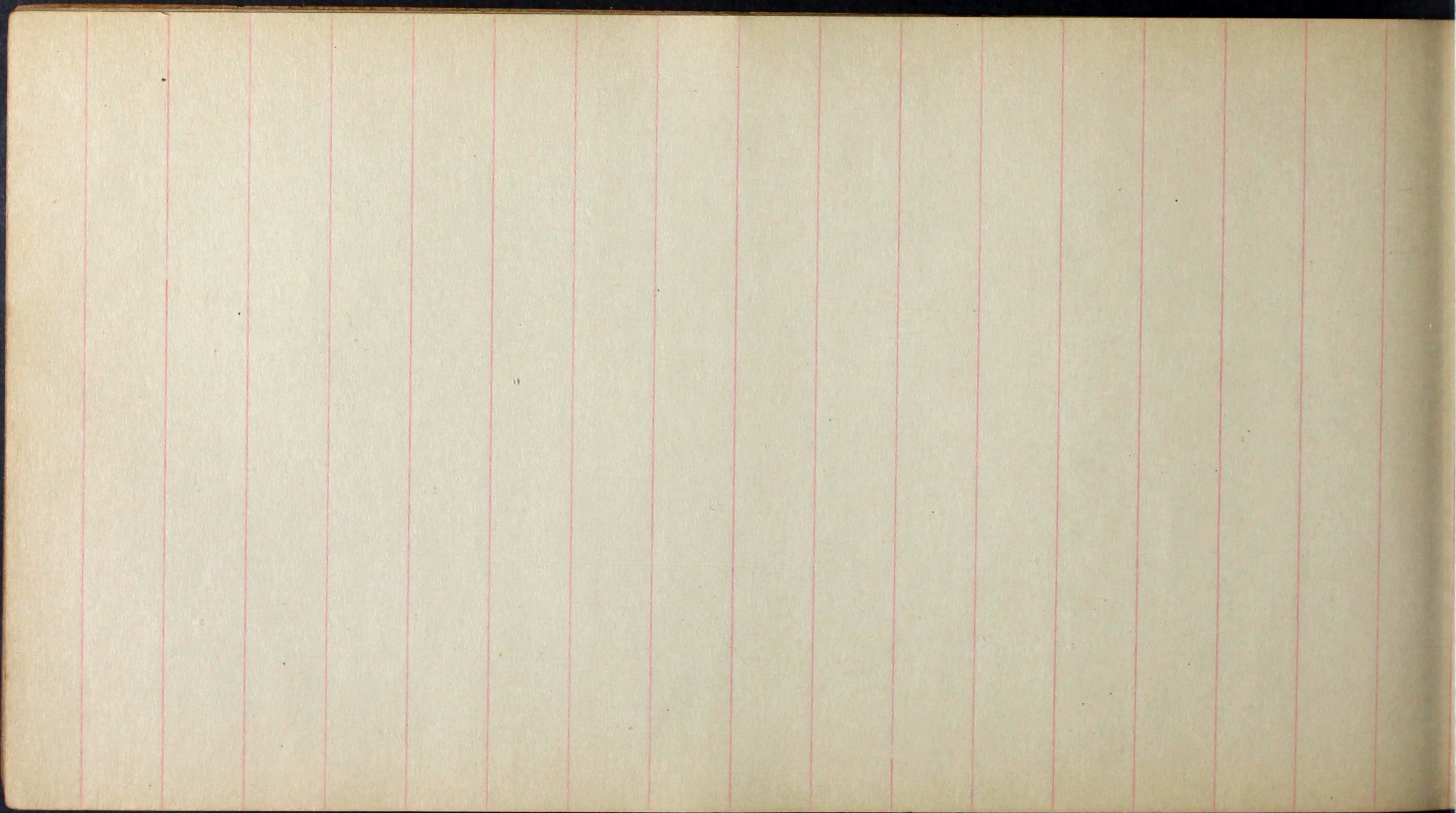
I often think of you, when I read your articles in newspapers, magazines and etc. I am so proud of you, that one Syracuse man is showing what he can do.

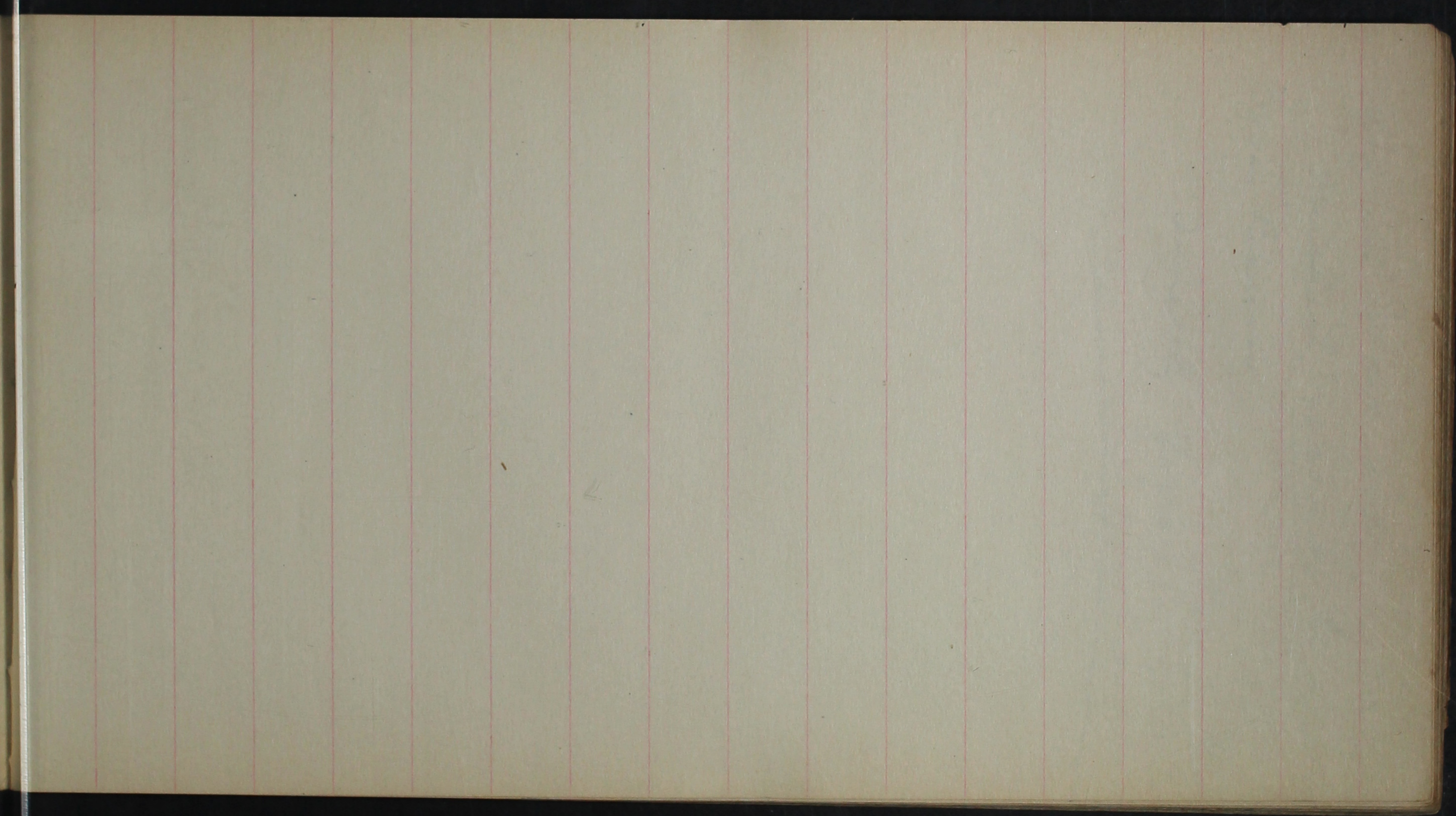
If you ever happen to be up this way, please

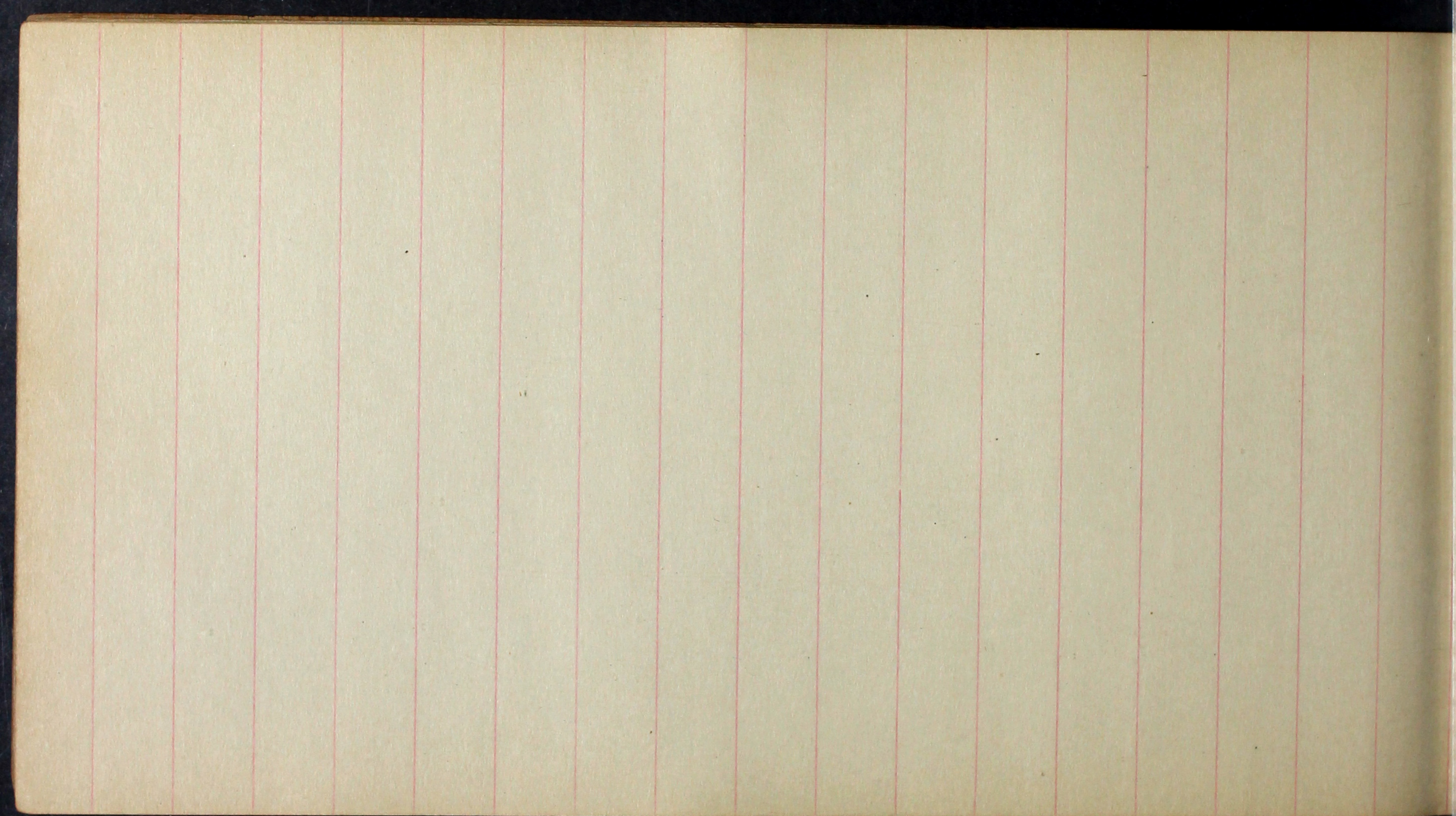
stop in to see me,
Kindest regards to
Mrs Baum.

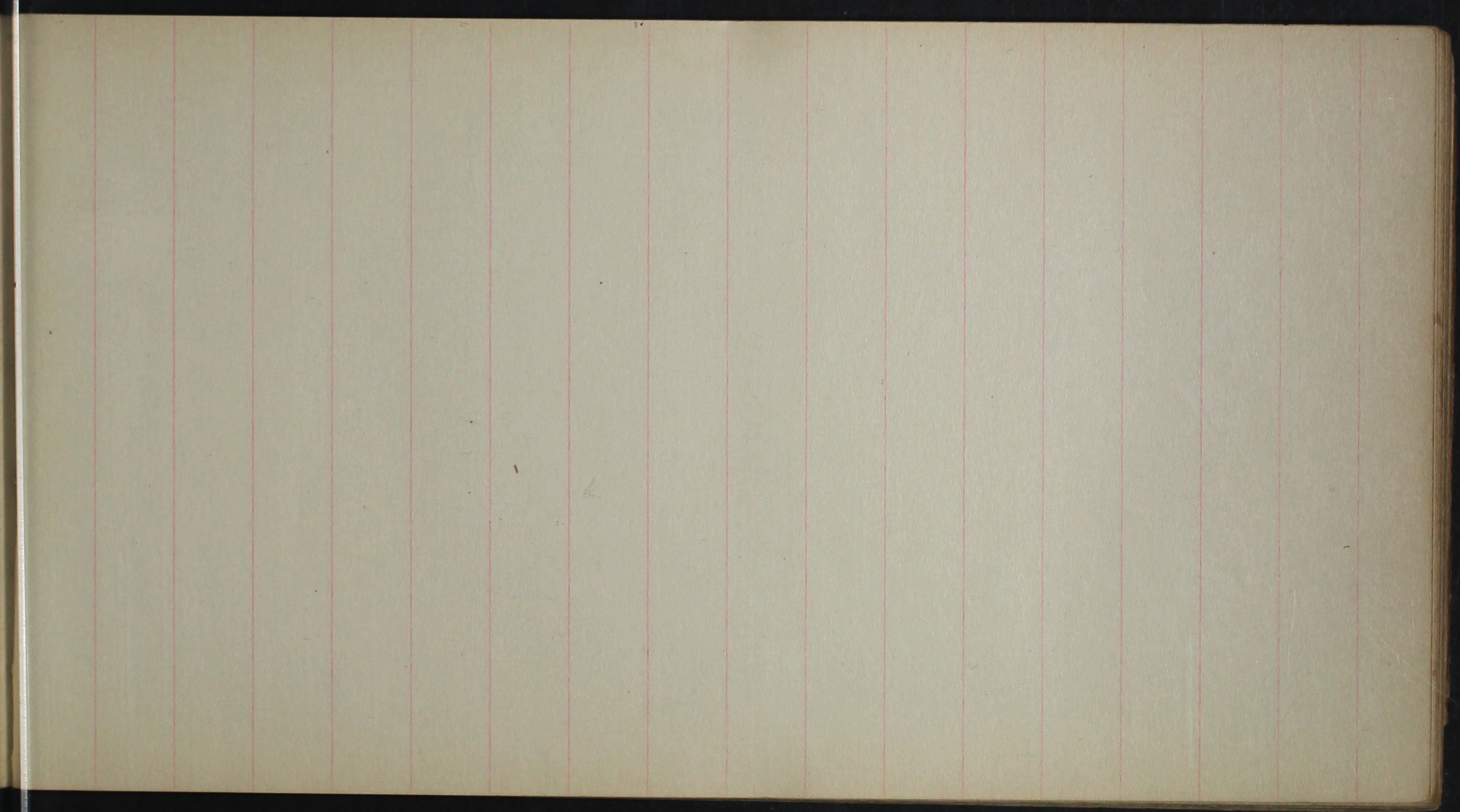
Sincerely
Jones

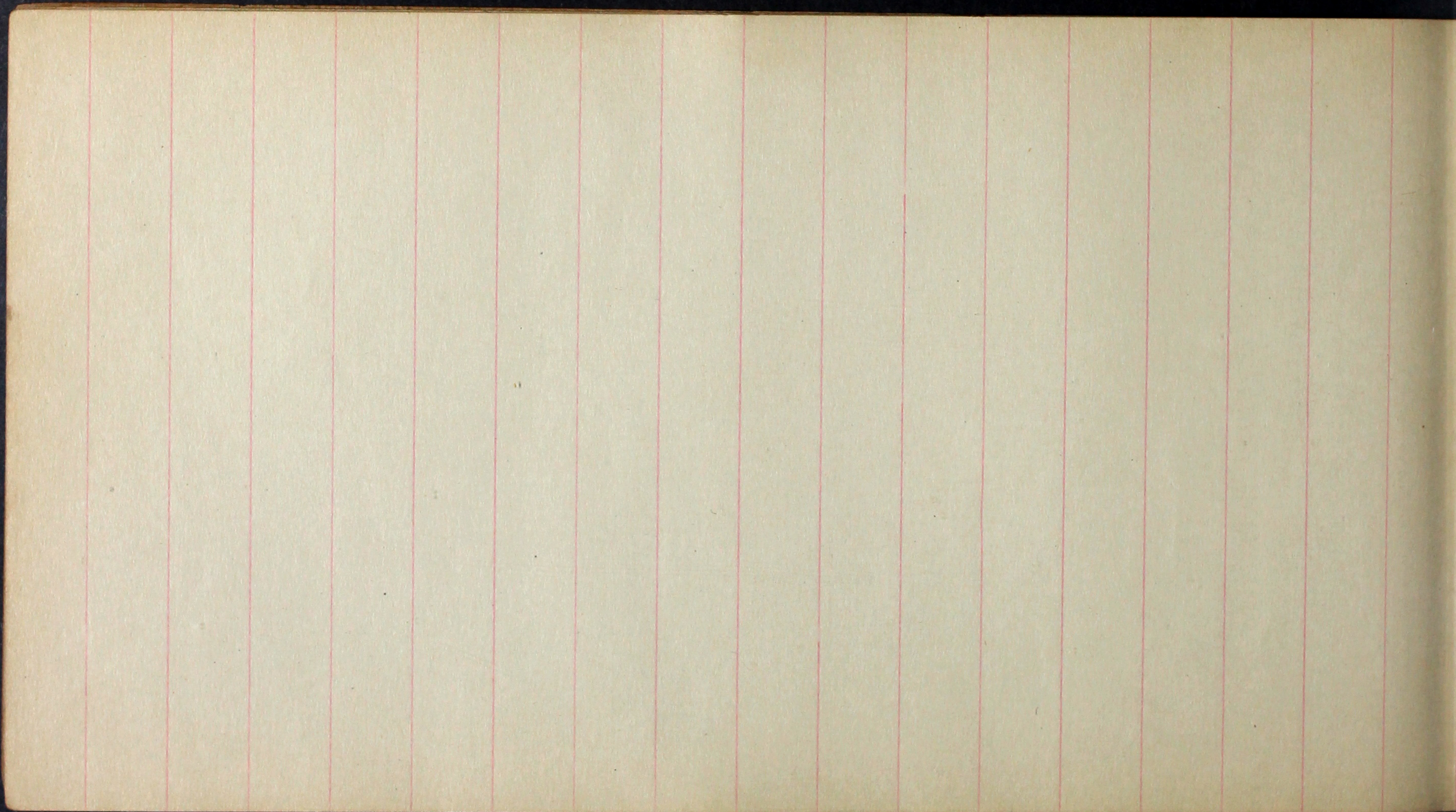
Nov 5 - 1921

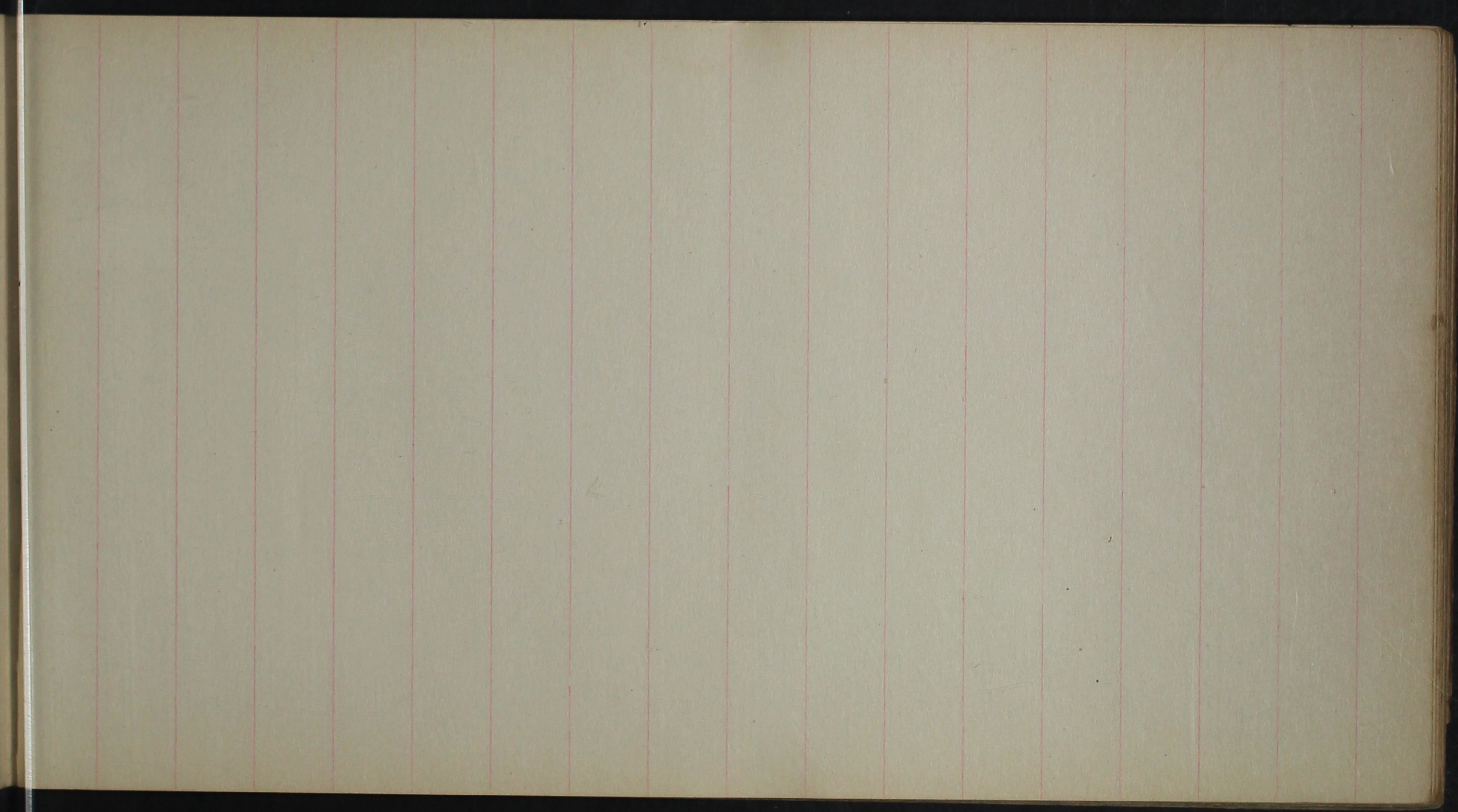


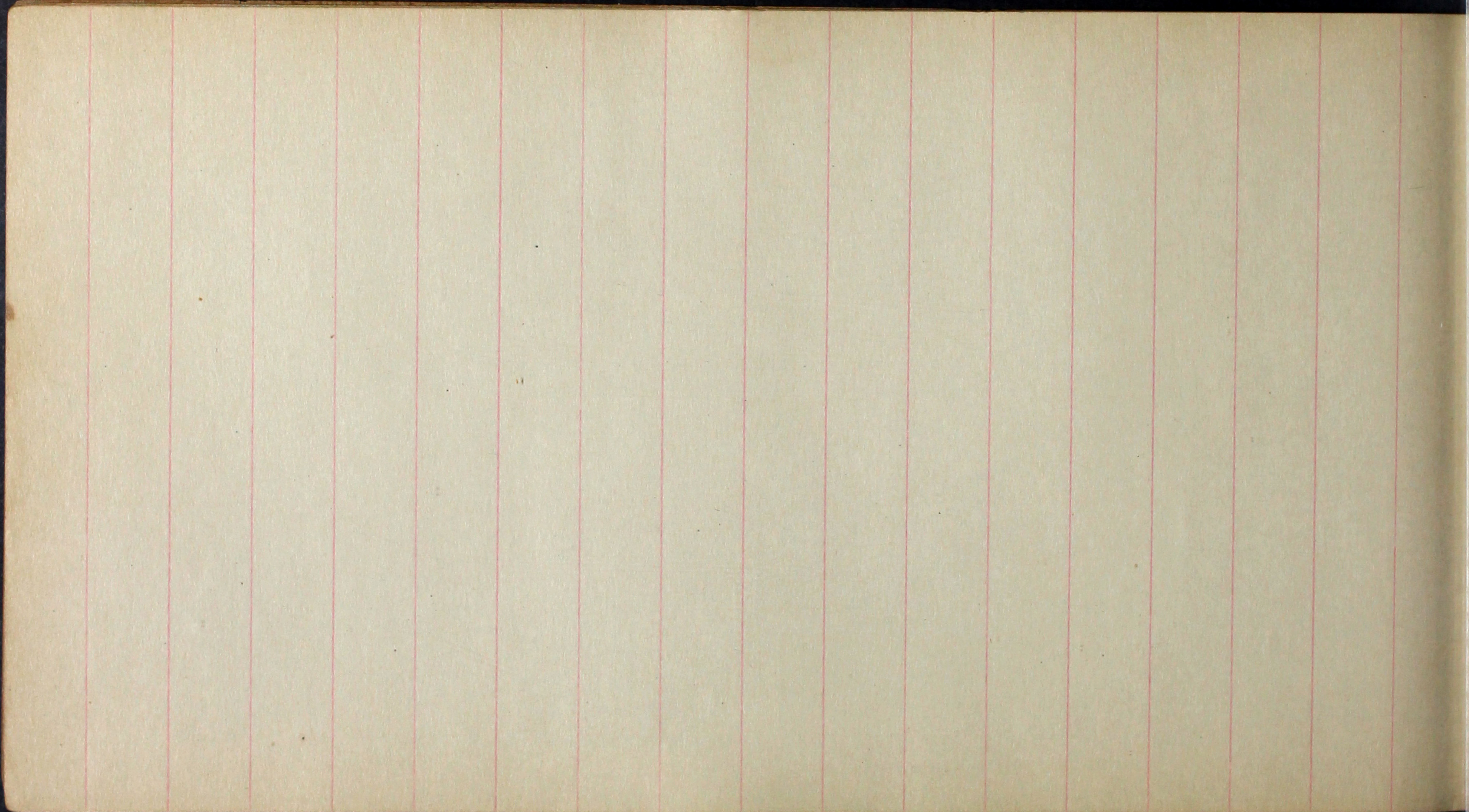


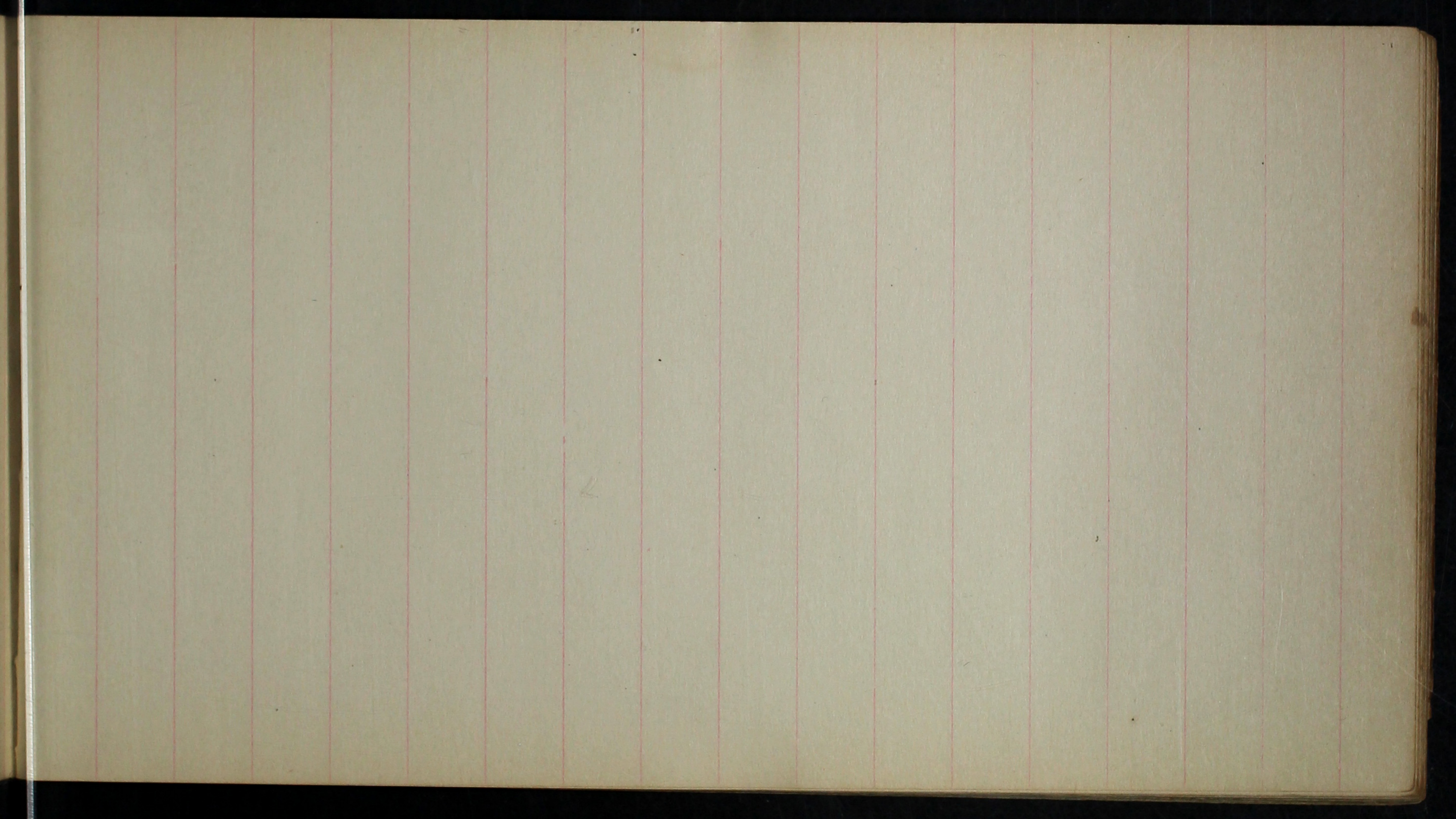


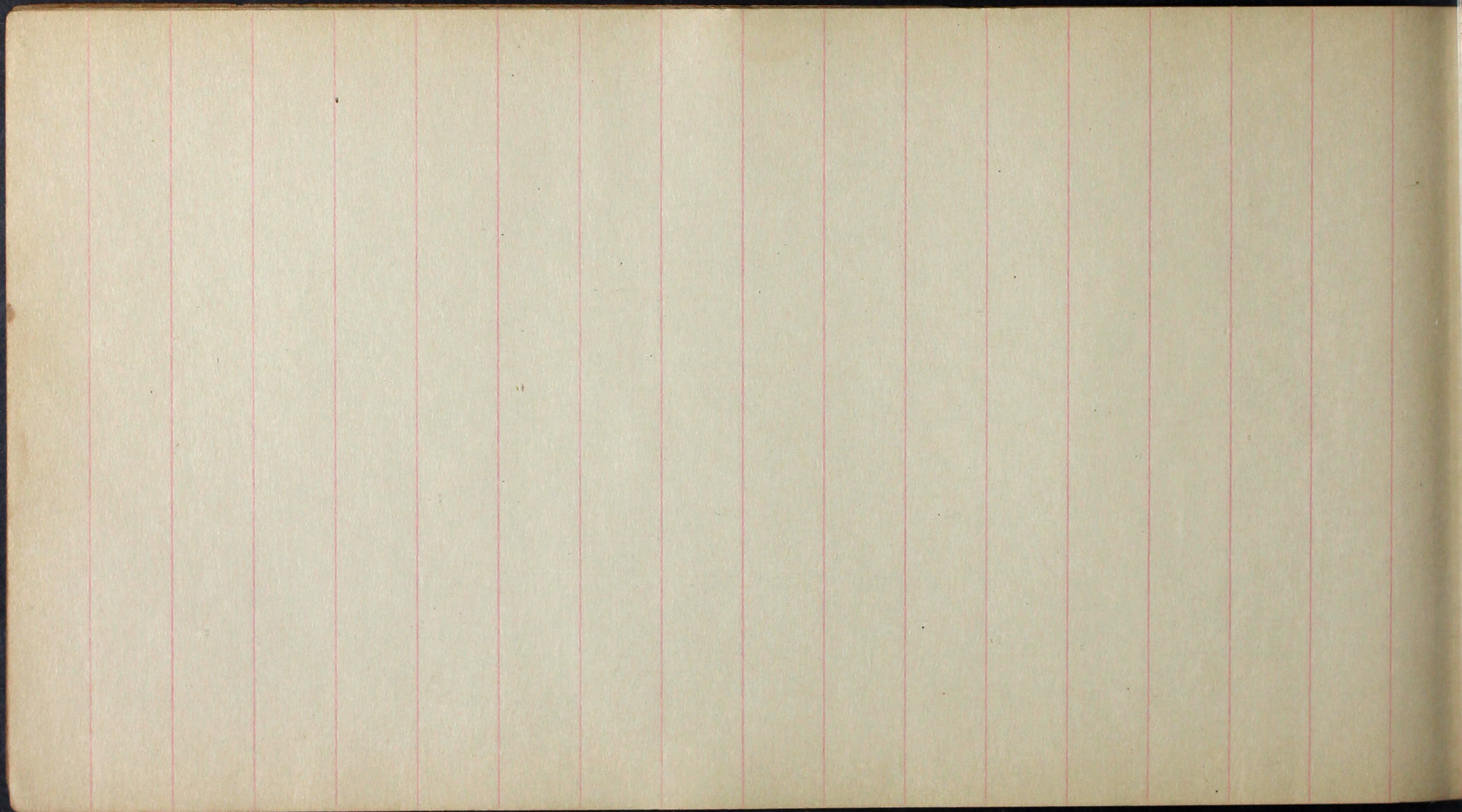


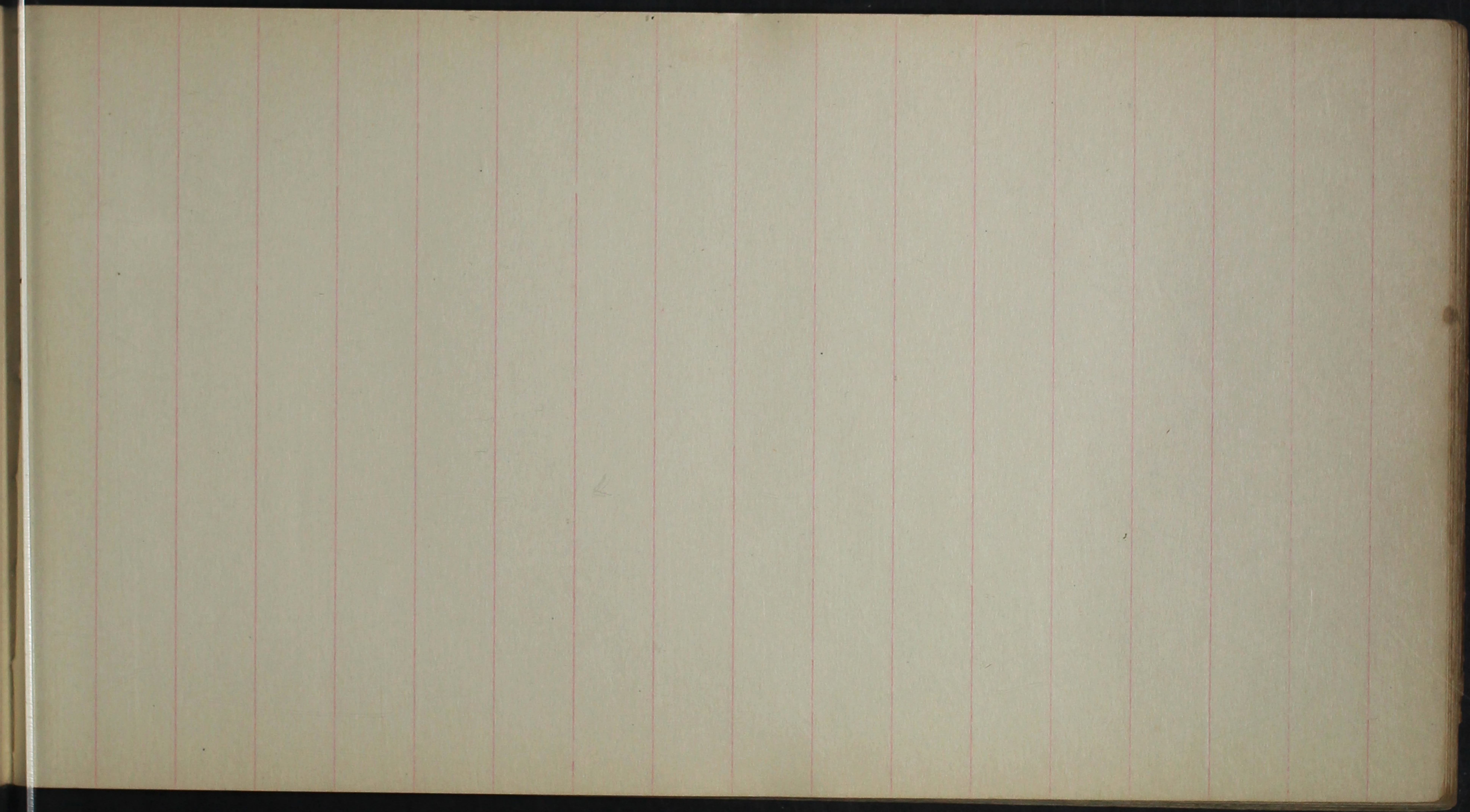


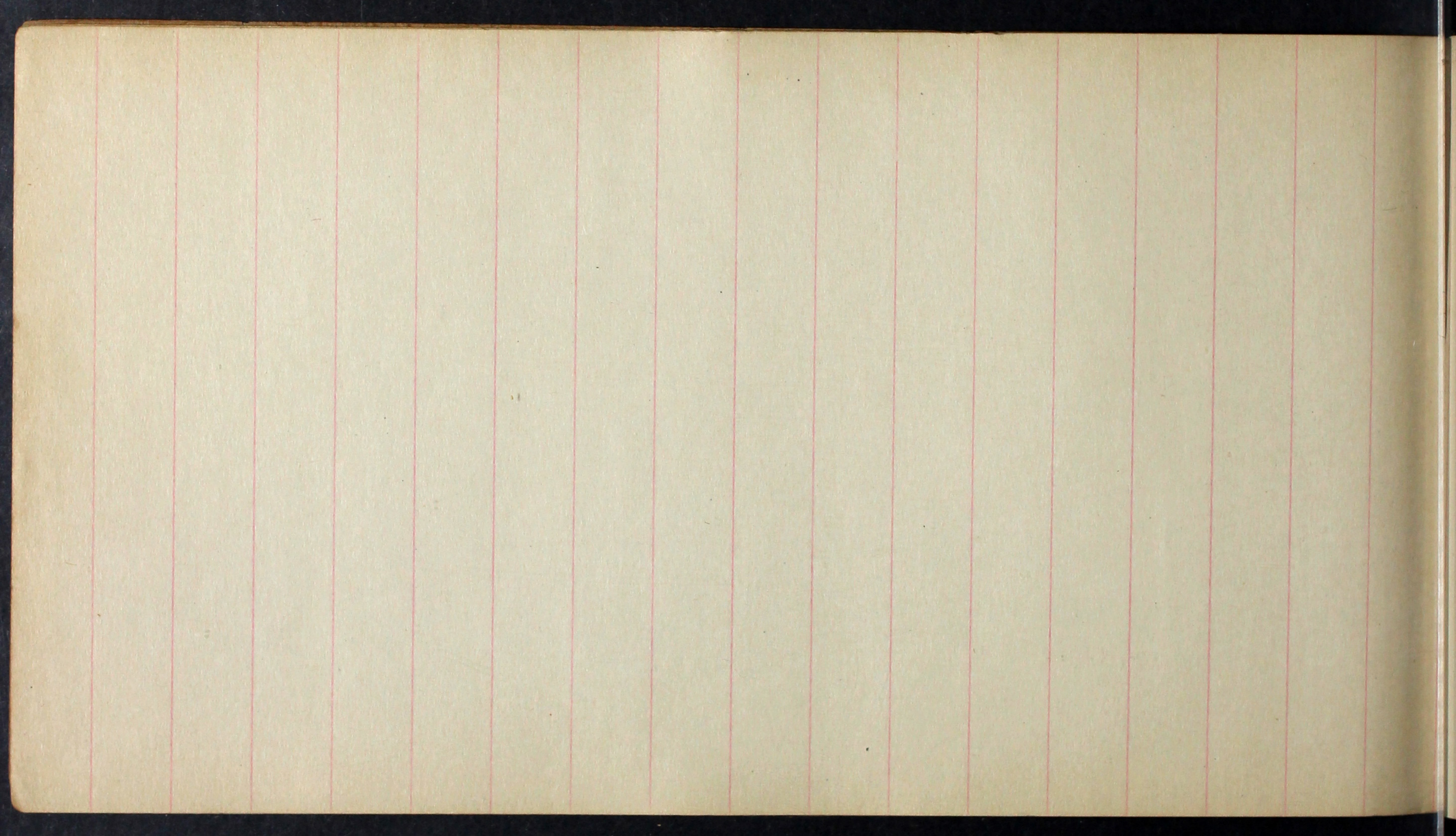


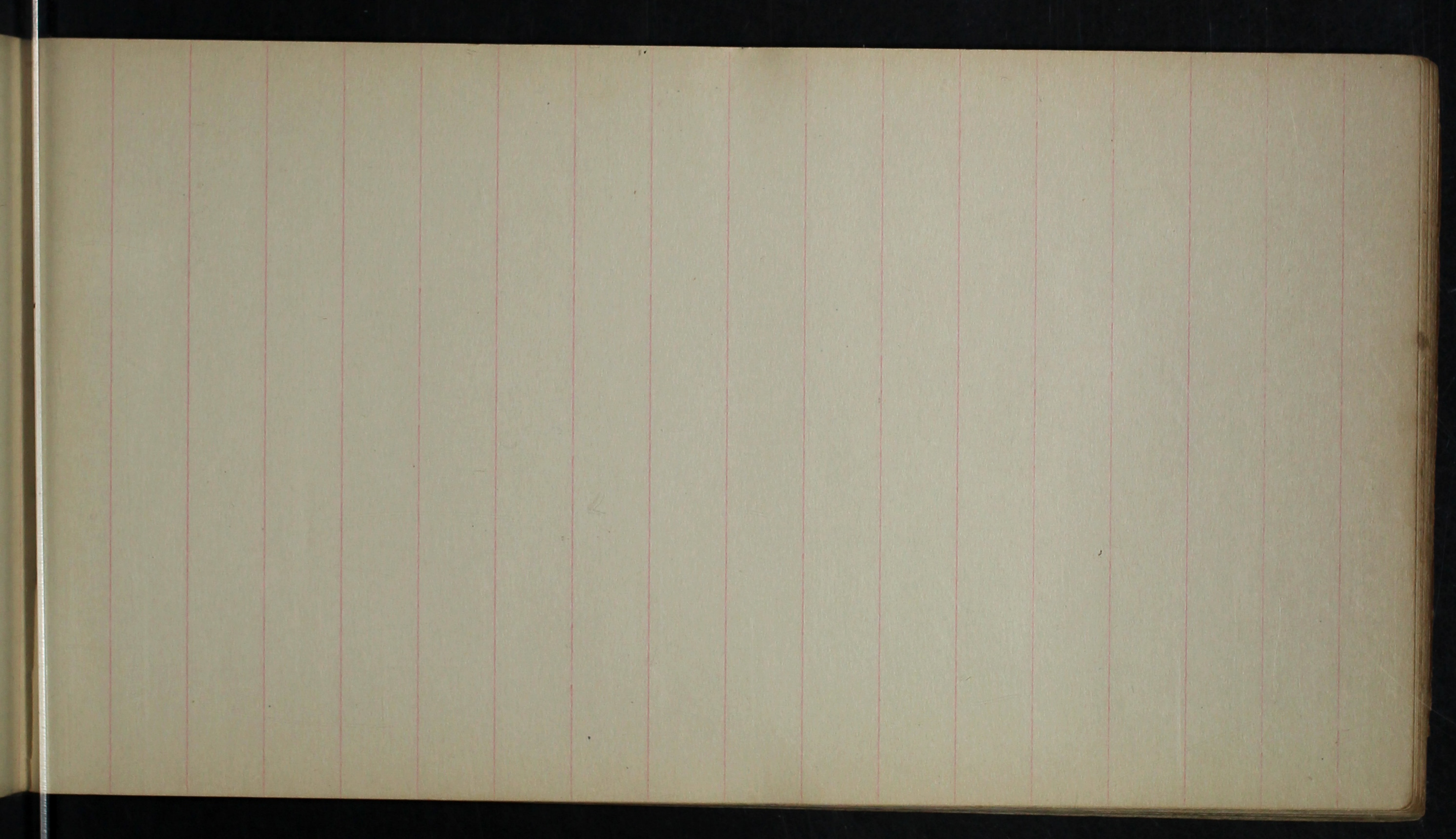


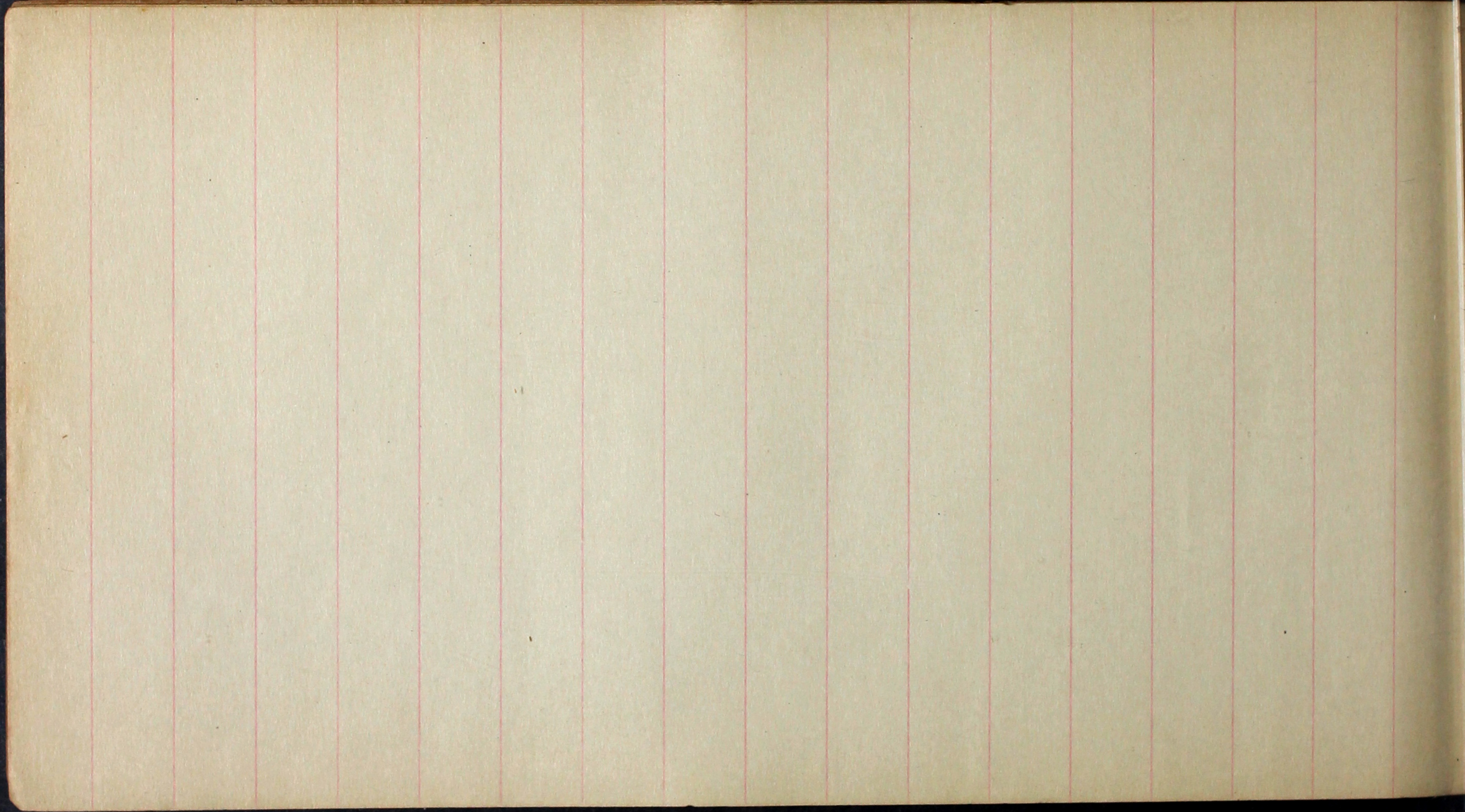


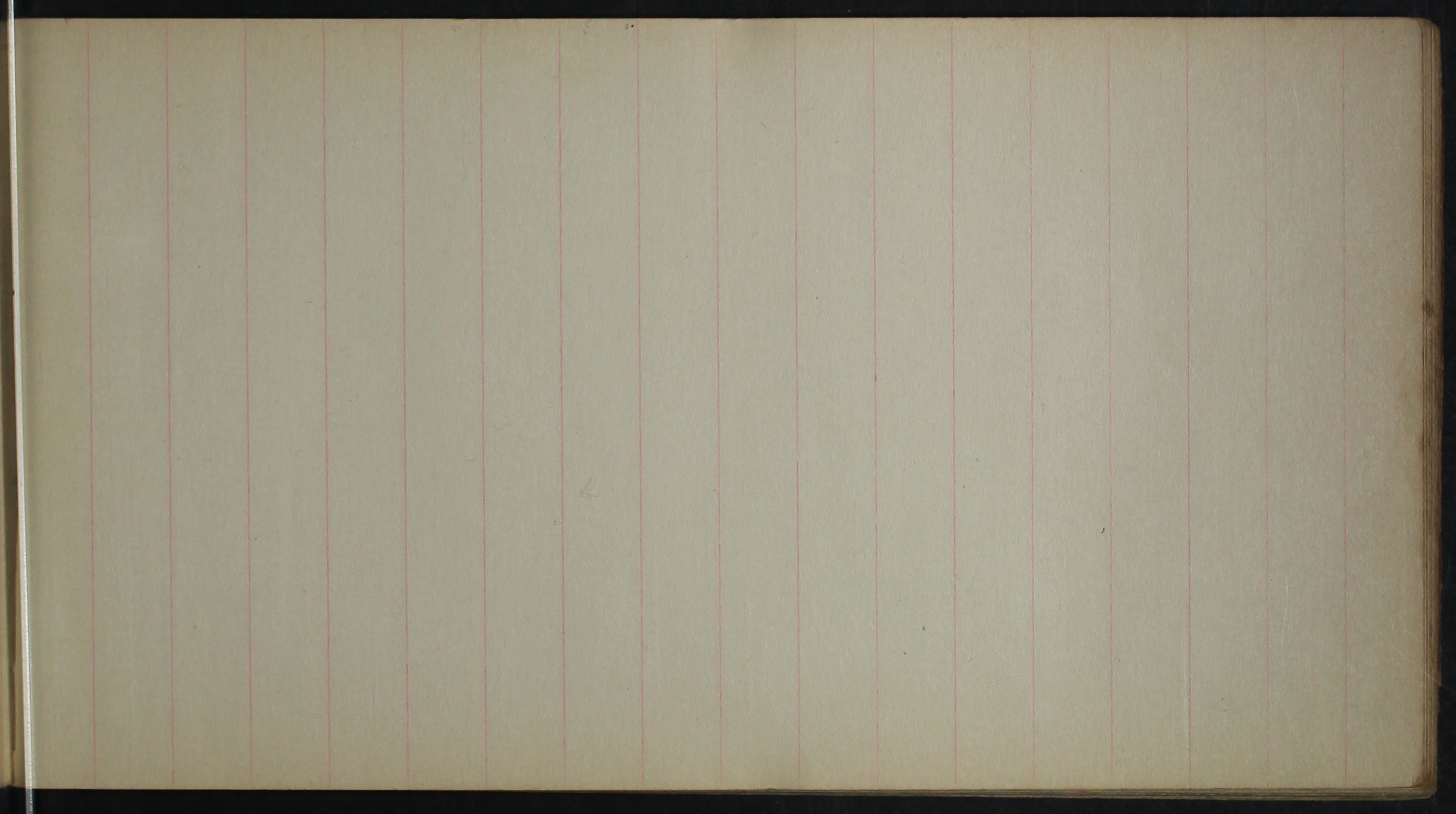


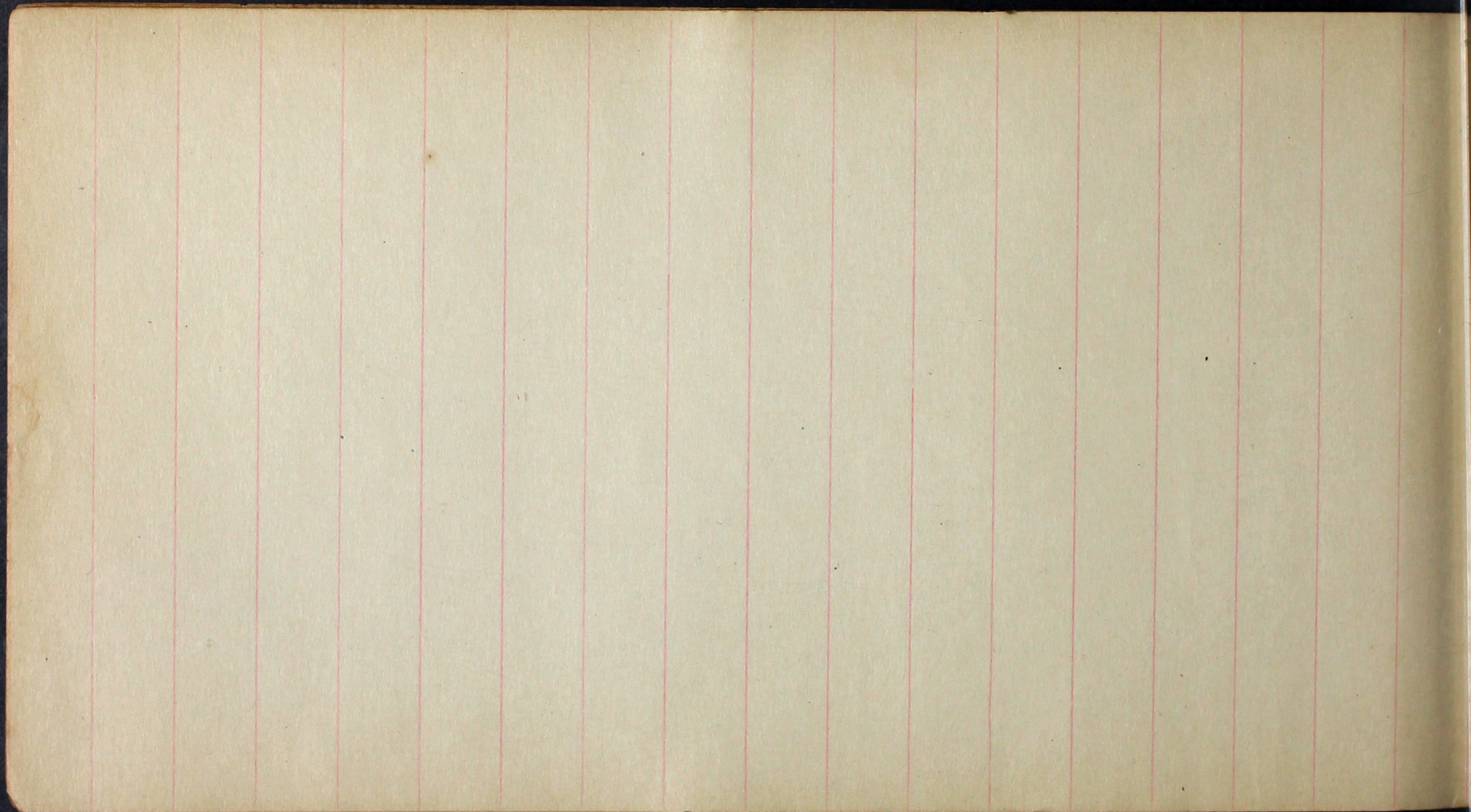


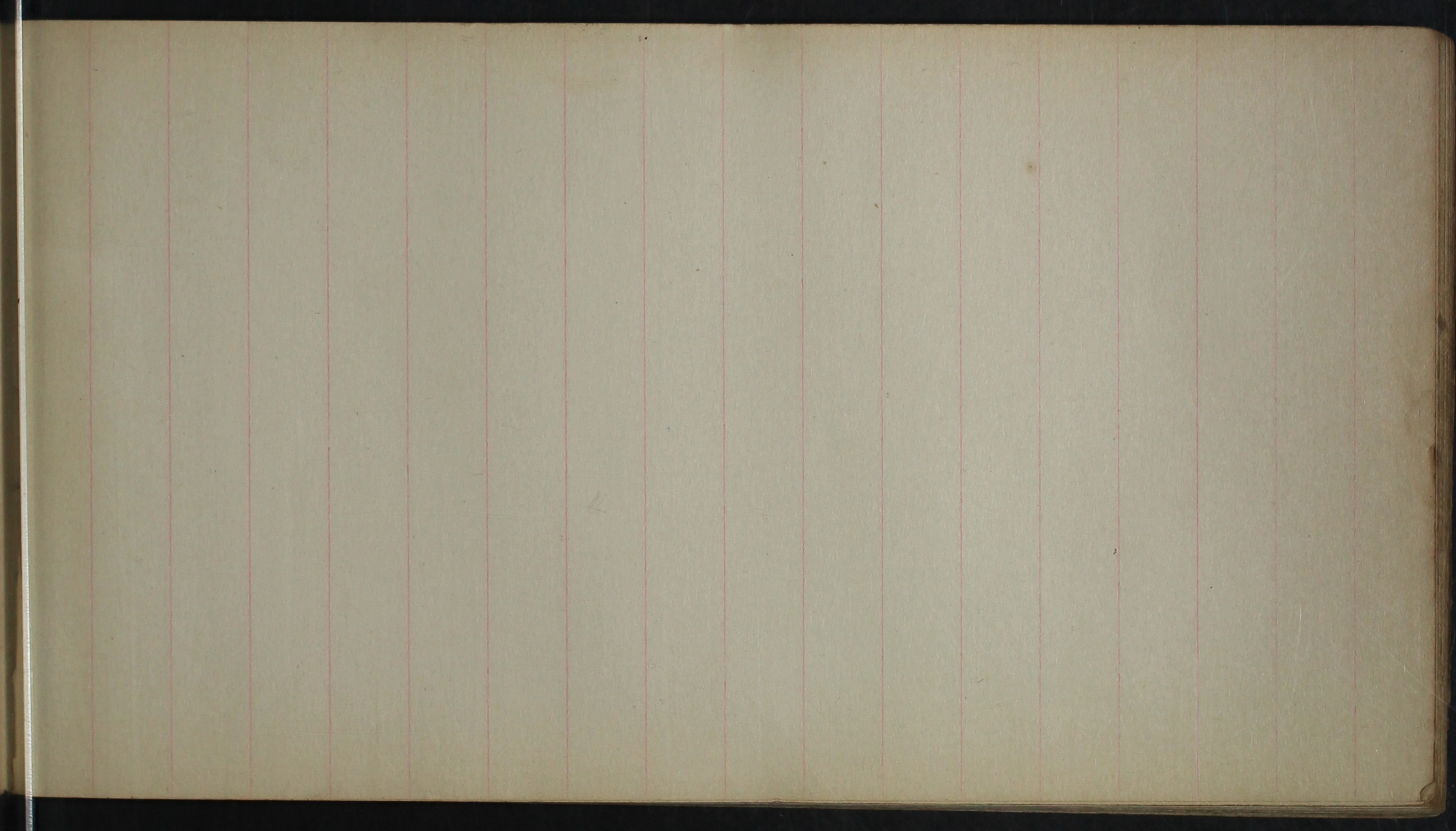


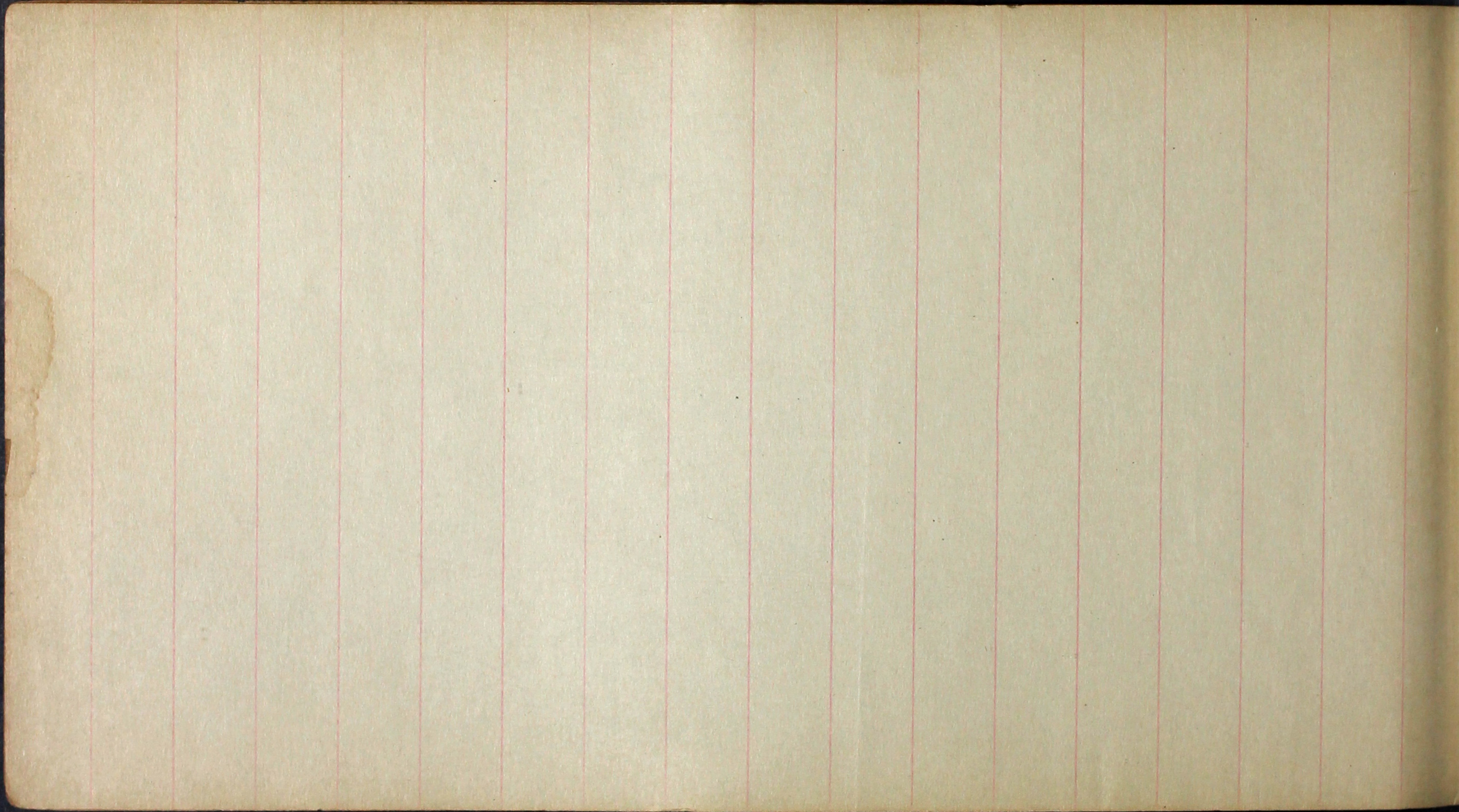












。何日先りの道の 雲の 行の

。何者、えき達 曇る者 細雨

。何後、今夕、この道、こゝろ

。何寒、漸し向寒の折

。何屋者

。老を在る如何に、老を、老例

。老 キアラウニシヨ 天女し常にならぬ

。豆の靴をぬき満ちて女婦人

。女とすれば、衣履の格に

。個のトウシタは、出たての

。すやい、ははい、

。人をまじりあるに、實に、

。あるに、病を、

。失、謀王と、知、心、

。の、輕、躁、の、轍、と、履、を、

。と、し、や、め、ん、じ、



